



初學子砂傳集

伊地知文庫  
文庫20  
219





伊地知氏書冊

初学欲傳集 目錄

- 一四季之詞 并付合
- 一雜之香歌 付合
- 一山類水邊居 付合
- 一神祇尺教述懐之書 付合
- 一戀之詞 并付合
- 一雜之刺草木之物 付合
- 一了ふ之付陽之書 付合
- 一山類水邊居之書 付合
- 一同并月之介
- 一山類水邊居之書 付合



一 百物三三言五句可也  
 一 打越場相備三句五七句物事  
 一 可通面打物  
 一 行一山心三并二二詞  
 一 各句切字事  
 一 正可心持事

右所中人若危ツバ官朱引兼可也

朱引ツバ  
 二川中朱引物本危二、年号也

正月

正月 正月事 年越所 立

立喜 あらむの年 如事

初去 子の松 着水

第弼トシ 吉事也 朱子 子句事

朱子 八層 蘇自教トト来元月 天子  
キコト 朱子 天子 天子

喜 初事 天子 天子

早成 天子 天子

止つきの早成 天子 天子

氷様 水のたれ 水と

大内 天子 天子

今を 天子 天子





水溜りていづれの水ぬらしめり  
沙宮 消るる所 吾間 何れもよ  
子日 初子小松戸川 為菜 正月七日  
会と区極言を

芥子 正月七日  
星打七夜

白馬 正月七日  
天子は清んを  
白馬書

穀 正月七日  
男あけめち日まき  
女踏けるを

鶯 三月後  
三月あけ

柳 三月後  
三月あけ

本 二月  
二月あけ

朧月 朧月  
朧月あけ

雛子 二月  
二月あけ

白鳥 二月  
二月あけ

焼野 二月  
二月あけ

二月

一夜更志 田邊 二月  
二月あけ



一 飯 別々 蝶 蛙 はなをめ

松のあ縁 まのまを 雲雀 まのまを

喜目糸 二月の留もれや喜目山まのま

大原より 喜目山まのま

南条 八幡侍の春は六裏山まのま

松の花 松よりりて花のまを

松の花 只松とまのまを

佛の別 二月の別 二月の別 二月の別 二月の別

苗代 種まき 花と約

名も業 まのまを 子願 まのまを

初花 初梅 花のま

三月

一 泳 生 永日 桃花 梨花

とこれ 藤 花と約

款冬 梅より 梅貝 梅網

正梅 己目桜 三月上巳の日 梅の水

あまのまを 三月のまを

若報 ぬ和布 細う川 焼

梅田 梅花 次之乃花 梅

鳥垣 雲のま 花のま

長迎寺



卯月

一衣づく表の衣を二つ 麦をまく

郭云 昔花をばらけしむるをまき

若菜まき 若菜の木のまき

卯花卯月 麦をまく日 牡丹

牡丹少 牡丹の木のまき

玉まき 楓

茂は 楓の木のまき

五月五月とす

一物易短夜 五月より六月へ

五月雨 梅の木のまき

神奈 平野奈 柳の

さくらの 五月 志道花出る

さくら馬の あま

檜の 五月 五月のまき

若竹の 五月のまき

早苗 五月のまき

百合の 五月のまき

水鶴の 五月のまき

鶉の 五月のまき

結の 五月のまき

席子の 五月のまき

鳥の 五月のまき



六月水之月林の薄六月の暮

一氷室 細練 あいさ目

泉 榎子 常友 石乃竹也

蝶 夕の光 夕立

雲乃炭 麦の穂のくさき雲

瓜 あららふ ぶりの花を

梯 あらふ 梯のけし麻のくさき雲

止海の母の花の暮 扇

清の結 清水のくさき暮のくさき

河原のくさき水のくさき暮のくさき

江秋 三月の水邊のくさき暮のくさき

蓮 風のくさき暮のくさき暮のくさき

たのひろのくさき暮のくさき暮のくさき

秋のくさき暮のくさき暮のくさき

暮のくさき暮のくさき暮のくさき

七月 文月 七月の暮

一秋立 柳の暮 秋涼 桐

一葉散 相柳のくさき暮のくさき

七夕 五月の暮のくさき暮のくさき

扇 五月の暮のくさき暮のくさき

身 五月の暮のくさき暮のくさき

身 五月の暮のくさき暮のくさき



か海や 女帯花 友をへぬ  
 萩乃 弟花 八月迄也  
 田中 名の勝 心づき  
 秋 玉奈 七月ある言 長  
 床 せざるを 二月とて 晴日  
 小川 運 ぶ 転 女  
 月 草 高草の 旭 晴 晴  
 立田 娘 袖 尾 尾 相 様  
 内裏乃言 言

一  
 八月 七月 八月 八月  
 七月 七月 七月 七月

鳥 雀 出 鳥 初 鳥 将 望 月 也  
 鶴 七月 鶴 衣 三 月 迄  
 立 鳥 一 鶴 七月 迄  
 初 風 冷 一 志 の 弟 也  
 鳥 雀 八 草 早 月 夜 望 月 也  
 あ き づ け 七 月 迄 草 首  
 田 中 身 心 山 田 僧 也  
 と 首 月 望 月 者 名 月 也  
 駒 匠 相 束 の ま ち の 駒 右 内 也 八月  
 ま げ 八 夜 迄 駒 使 匠 也 也  
 尾 花 野 分 長 束 萱  
 夜 八 月 九 月 正 長 夜 十 考 五 考 也  
 尾 花 野 分 長 束 萱



三つりくま 碓 キタ けいこめ  
目録ハ事申上り位とすしひる事八月十日

九月 長月 九月廿二日

一着 前着 紅紫 ちん冬と

時取 秋の月とく 御意 いんぎ

草のうら 世とせう 草とせう

草とせう 世とせう 草とせう

出の若ふ 若の種 花と

とて田 とて田 あとめ

葉 正木教 作らる

枯らる 無らる 木の教ハ枯也

木葉のい 葉らる 指ハ妹

いしり田 いしり田 枯種の花

推 弟枯小花のあを梅

冬迎 冬迎

十月 秋之月

一町取 その花 ちり 葉 返 潤 時 毎 色 色 同

霜 冬 冬 木葉 木葉

葉 枯 枯 弟 弟 ちり ちり 時 時 冬 冬



小去 木下 唐竈  
冬去 細代 中島  
死鳥 2色 巻の巻 三月 木下  
鷹狩

十一月

一氷 三月 正月 日 木下 八日  
折葉 宮 初冬 十月  
ゆき 少 山 家 敷  
氷 莫 みぞ 木 神 木  
豊 雨 木 下 木 下 木 下  
と 木 下 木 下 木 下 木 下

目 教 入 京 目 教 入 京 目 教 入 京  
木 下 木 下 木 下  
木 下 木 下 木 下  
木 下 木 下 木 下

十二月

一 木 下 年 木 下 志 下 木  
佛 古 衣 木 下 木 下 木 下  
年 木 下 木 下 木 下  
返 傲 木 下 木 下 木 下



春 付合

一年の始りたる年 去るのくハ

庭梅 常 長栄 竹葉

弁 桜言 庭砂 宿宿

少解の 九まは年をけさ

<sup>拾</sup> 去平く云斗も言非の山を宿る

<sup>訪古</sup> 何れも去非をいふ生じ天者之山宿

<sup>詞花</sup> 昨日も寂あつてはさるる山宿の山宿

<sup>拾</sup> 去平く相つる言梅の宛宿るる山宿

<sup>月</sup> 新玉の年を宿りし山宿の山宿

<sup>訪古</sup> 岩間より少し宿解ぬく言山宿

其の初年へは宿る

又源氏初言の言よ 庭梅胡の

のれを宿あつく言あつて宿る

よく宿るあつく言の山宿

山宿の山宿の山宿の山宿

山宿の山宿の山宿の山宿

山宿の山宿の山宿の山宿

山宿の山宿の山宿の山宿

山宿の山宿の山宿の山宿

山宿の山宿の山宿の山宿

山宿の山宿の山宿の山宿

山宿の山宿の山宿の山宿

山宿の山宿の山宿の山宿

春



幸し乃名は色 年ハ好まは

空動らる所

一庭立ニ 喜風多し心晴るる云

風物并 常の事しけり水道

山吹虫古井付下

山ノ庭ニ 水蔵月一ノ

月後出りて露草水蔵川又井付物心

秋後後花もいづれ庭つゝありて月

去れ来りて月後庭もくわたり

春庭立花のめり花の地里に住り

去りて庭もいそそ花登之そそありて

引かへりて去りて庭もいそそ花登之そそありて

一梅ニ 鶯 音清もつて 葛原

北谷 里 砌 雑 庭

窓 園 行 古 致 去 乃 月

去乃夜の軒端の梅も月月のさるる地并

つき〇 松竹 蓬生 新波

初歌 喜月井 晴秋心

梅 元小晴るる月ノ景村白妙寺庭

梅 心る庭のあけし花もあつた

梅 花をばしとて空のあけし花もあつた

しものもたつ袖あり白くも喜月井

人いふ心もあつた花も喜月井

是ハ純書之妙決也 我古里也



種竹常し咲けし花を結り今城立と咲け  
この花梅れまし梅の花の先こく云  
右の字ハ赤井天守の字に傳と書  
小おりのた空居乃まの浦才の信  
手小おりのた空居乃まの浦才の信  
退しつゝい空居乃まの浦才の信  
病死しつゝい空居乃まの浦才の信  
まはしつゝい空居乃まの浦才の信  
なるといふは山りのまの浦才の信  
仁徳と書とやとある

一鶯梅香若乃戸山 野鶯

園花柳竹寺詠玉の年

詠玉の年高柳のつらま高柳のつらま

春のあけぬ ねねうらま

胡乃息 春月 傷心 於田

ひまふよのあつらふ限なし

契を付るは

林若何変は 琴堂曲を

あさい花おろくると付ら

宿迎梅の花へ 鶯の啼きあふ

鶯々付るは詩

拾 鶯既思長待胡堂赤山遺貫在夜

鶯のあふらせ 鶯のあふらせ

鶯のあふらせ 鶯のあふらせ

鶯のあふらせ 鶯のあふらせ

一子日 春乃野は

二月廿九の日廿に出く小松



祝言 酒壺

詩云 傍松根 摩腰 十年 翠滿 字

引月 二葉の松 成り 春の満

君代の子 目乃 松 成り 春の満

初乃 初み 成り 春の満

一着 茶 名 同 形 浮 少 解

河内 里人 吉野

花火 形 生田 胡乃 思

若菜 名 同 形 浮 少 解

若菜 名 同 形 浮 少 解

松の道 名 同 形 浮 少 解

一柳 六門 陶淵明 柳 先生 云

去乃 河内 村乃 境 道乃 へ

里田 苗代 地 春 野

春 池 水 蓮 花 露

春 雨 鞠 の 衣 清 水 ぐり の

道乃 名 同 形 浮 少 解

若 柳 上 名 同 形 浮 少 解

若 柳 上 名 同 形 浮 少 解

柳 山 花 結 成 り 春 の 満

若 柳 上 名 同 形 浮 少 解

道乃 名 同 形 浮 少 解

水 龍 川 若 柳 上 名 同 形 浮 少 解

水 龍 川 若 柳 上 名 同 形 浮 少 解



去柳の首出の氷日あつみりあつき  
まねた高の流柳糸あつりあつき

一言清 去日新 田をせよ

七采 去雨 羊角出る

若菜摘 産 柳邊より

去乃之 昔 ころころ

去乃川 水あつころは 卯花散

往來者あつき

又去乃の月あつき 去清あつき 去月

入るる所 髪あつきを せしめあつ

去日野あつき 去乃の月あつき 去乃の月あつき

去乃の月あつき 去乃の月あつき 去乃の月あつき

去乃の月あつき 去乃の月あつき 去乃の月あつき

去乃の月あつき 去乃の月あつき 去乃の月あつき

一春雨 日永あつき 去乃の月あつき

去乃の月あつき 去乃の月あつき 去乃の月あつき

去乃の月あつき 去乃の月あつき 去乃の月あつき

去乃の月あつき 去乃の月あつき 去乃の月あつき

去乃の月あつき 去乃の月あつき 去乃の月あつき

去乃の月あつき 去乃の月あつき 去乃の月あつき

去乃の月あつき

去乃の月あつき 去乃の月あつき 去乃の月あつき



金 引返り波初 一り 嘉都の糸 一り 此も  
如る 一り 城 一り 一り 嘉都 一り 嘉都 一り 嘉都  
解 一り 一り 一り

一草の露出 一草清 喜返 野

津色 返捨る 田色 約

往來ある古道

引返り 一草の角 一草清 喜返 野

引返り 一草の角 一草清 喜返 野

若弟 一草の角 一草清 喜返 野

雉子 右草の角 一草清 喜返 野

一草解 一草清 喜返 野

一草 一草清 喜返 野

氷ぬき 一草清 喜返 野

鎌 一草清 喜返 野

芦角 一草清 喜返 野

喜風 一草清 喜返 野

唐橋 一草清 喜返 野

靱帯 一草清 喜返 野

引返り 一草清 喜返 野

引返り 一草清 喜返 野

引返り 一草清 喜返 野

一長閑 鳥の蝶 春日歌

喜返る 舟出る 海色 解



物狩 履 花咲 風鳴

朝日 朝日 晝ハ陽氣 暮ハ陰氣 夜ハ星月 此ハ天の象也

あまのつゝかふ家わ 碑中

焼火 弟のり 氷解る

一う群るニ長業乃合日あり

松乃指 柳の縁 弟は末葉

海色 春の祭神をどけたりハ

皆成てけりつゆあり

一衣海 衣海ニ衣ハ衣也 海ハ水也 衣ハ水に衣也 故ニ衣海ト云フ

清りよふ言あり 春を風吹

日影是 少 くら場

鳥のねる来 花を待所と

一寂走ニ庭酌 酒多の飲

さすの庭 於人月庭し

世原竹乃葉 板屋ると

あるふりてけりハあまのつゝか

けふのつゝか けふのつゝかハ今日也 けふのつゝかハ今日也 けふのつゝかハ今日也

神 神ハ神也 神ハ神也 神ハ神也

一懸石ニ祝言 庭酌百委

玉指さつ 春乃直 神乃也

又石もけりニ於乃外けり

角の若のおもひの神を思ふあり

一鳥の精ニ日乃後 雑 長業



此 去乃山々 花の下迄  
亦の林 梅咲山 雨乃塔  
人書かんと野 唐人ゆり出る  
池水 あちちとほら

一 佐保地 山 炭河上 柳  
唐乃衣 衣乃衣 花衣 唐  
月かんの 和列 書報 嶽 首 嶽  
ふ地の地よりの 唐人の書報の 嶽 嶽

一 東風 梅白く 花衣 竹乃の  
る 唐乃衣 嶽 嶽 由 佐 嶽  
はく 唐乃衣 西乃衣 嶽 嶽

一 勝月夜 郭云 銀乃の  
一 金乃の 衣 嶽 嶽

一 郭乃 去乃の 嶽  
一 郭乃 郭乃 野 山 嶽

唐乃の 去乃の 嶽 嶽  
若乃の 嶽 嶽  
佐保地 嶽 嶽

只 将乃の 嶽 嶽 嶽

一 白尾 唐乃の 嶽 嶽 嶽  
唐乃の 嶽 嶽 嶽  
唐乃の 嶽 嶽 嶽  
唐乃の 嶽 嶽 嶽  
唐乃の 嶽 嶽 嶽

一 田乃 嶽 嶽 嶽 嶽



柳之風成約舞 里人約子

水ぬかし 言清る 里の物

一層の蛇 川水 岩の水

水せきもつ 覓 柳別 布島

伯吉 難波 いかに奇なるもの

街をくぬぐ水の流れと難波 よりいり

引らけける地海なるを いかに

一首代 右田付答問の表 いかに

根芥 覓 を水とく水遣

一佛別 三三三 佛 寺 思深る神

志 いかに 打 撞 いかに

後世 いかに 志 目 象 いかに

山科寺

鳴沙 卯月 分 いかに 鳴 いかに

一胡蝶 着 弟 神 庭 垣

羅 羅 いかに 花 去 目 就 病

菊 いかに 菊 いかに 菊 いかに

弟 花 枯 いかに 舟 いかに

梅 竹 いかに 草 いかに 花 いかに

菊 いかに 菊 いかに 菊 いかに

一石 田 いかに 田 いかに 長 いかに

舟 いかに 舟 いかに 舟 いかに

常世 露 いかに 露 いかに



一物考世の夜ありし月ハはくを

去る夜月 山の鶴もよおしの夜 三風絶

入江の糸 越海物あり ねえ

病をとりわり 燕一物ありき

琴今 十五経なま 月三物ありき

むれ 旅

其をいしの素の初を浦のくもゆき

是ハ源氏流たすくふ村幸ねゆ物後

つれづれと海の舟を二金のゆきをき

此れをぞわぶたす金の花はかた

石段二札とまじり

志がき 報波名宗とひのき

雉子三 守正と名を推す

野山 古畑 畠ハ 焼野

石間 片形 儀藤 若葉

妻目形 じふ形 若田形

一蛙 苗代田 沱川 水あり

取 取 鳴もの 数冬 玉川 井子

秋多ハ川 増増 増増 川川 井井

日 川 田 後 名 形

琴 奇

一之 雀 井 林 茶 乃 原 若 弟

はくれ 芝生 あつ田乃尾

芽 茶



風景 夜中を 夕日影  
海邊

船の海邊の井原冬事 を藤原の  
一汗より行 う 流るり 河 う 田

一 毎 石 遊 う 事 を 更 う 山

と云はるるを 石 を 遊 う 事 を 更 う 山 と云はるるを

石 を 遊 う 事 を 更 う 山

石 を 遊 う 事 を 更 う 山

道代 吉柳 毎 う 山

吉柳 毎 う 山

一 表 鏡 う 水 を 心 を 遊 う 山

如 幾 川 桂 川 松 浦 川 藤 河

一 表 目 象 う 山 遊 還 志 を 遊 う 山

道 を 車 森 酒 遊 う 山

山 を 遊 う 山

上 月 を 心 を 遊 う 山

一 南 象 う 流 る 川 舟 遊 事 を 遊 う 山

車 神 を 遊 う 山

その八幡殿の 将 門 事 を 遊 う 山

一 桂 う 古 川 遊 庭 川 上

庭 川 上

玉 桂 を 心 を 遊 う 山

言つり



後山より北へはるるに徳のふもてぬまのてを

之藤の白雲徳をうん八雲の教り者徳をん

とこ也乃山 鏡山 志徳村

一藤 志乃村 山谷 志雨

徳野 宮宿 志月村

じこ村 宇治乃山法

け云 誰のなるん云人のかこ云徳の徳

是は山法中の中の表の徳の中を云く  
源氏の山身うんそくの家れはじせり

任徳山 のあざりてそくをそくせ  
徳野山 山をいふとある所をいふ

春のあまの徳法はうん徳の徳

あざりてそくの中をいふと徳の  
うん徳

赤い徳人任山 川徳のうん徳

伯夷叔齊云兄弟の徳は宗  
徳のうん徳

一暮 野 病 宿 白雲 権

芝生 二つ 古徳 志乃村

小井 若根山 布徳村 徳

岩田乃小井

一藤 池田宿 志乃 志

川原 志雨 徳云 志

廊のりり 行門 尾上

あまのうん 徳の徳のうん

白川乃宿 志乃 志雨



信  
好ましくそ志を執りし年の内は志は

春日山 田子乃浦 一室の無常を

任吉 氏 花をみとるわも

引く春津の海濱はまの山部とて

春日山 一室の無常を

田子乃浦 花をみとるわも

任吉の松がまはる春の花風のたは

一瓢を 河邊に 存 池 二 川

衣の色 瓢を 池 二 川

吉野川 川の石の常を

吉野川 川の石の常を

井手川 川の石の常を

秋高の井手川 川の石の常を

一瓢 踏 若 山 若 畠 の へ

池 初 津 川 川の石の常を

山 念 山 常 盤 山 若 畠 の へ

一 携 酒 在 里 園

大なりつる奇大の花考流 携 浦

仙人 携 源 任 云 其 賢 仁 也

牛 日 携 源 半 と 故 也 云



秦乃礼世避く山三川我賢仁何集

桃乃梅五と云く

二月雪 春乃野志川の

雪に梅結ひて付へく一古川

古川乃如くゆ上乃如く春乃如くゆ下を  
春乃如くゆ下を如くゆ上乃如くゆ下を  
春乃如くゆ下を如くゆ上乃如くゆ下を  
春乃如くゆ下を如くゆ上乃如くゆ下を

一花乃咲く 春乃雨 長栄 鳥啼

物如くせ 花の朝も咲く夕も咲く  
梅乃中乃物を梅花つど  
鶯冬 暮るど付く春乃白は花  
と付く乃花く一なる成く也 春乃

三月同花あり 地春乃花の咲く物  
付く一いつりて面白く花

石乃竹 菊 杜あうとけへ

花正咲 咲ぬるど 春乃花

雪と結 春乃古栄 春乃花

春乃木乃梅 春乃花

一花乃咲く 春乃蝶 風長栄

春乃雨 春乃花 春乃花

春乃雨 春乃花 春乃花

外へ白起 春乃花 春乃花



花咲きうつし竹根のこりかゝり  
都乃去の神の色 式花下を庭敷  
承目成忌律書 瑞雲のわが所  
又常小のあゝさ山里を去る日  
前を折るるさゝか

河をわしとちの山を流るる  
引あはれとち老の志のあはれ  
三はちのちのち

一花友の春風 鳥の家

春風を折 去乃山流るる  
公云の梅 雨あはれ

引あはれとち老の志のあはれ  
三はちのちのち

引あはれとち老の志のあはれ  
三はちのちのち

一梅花のけり合日あゝ山類 文彦

庭蝶を 大友

引あはれとち老の志のあはれ  
三はちのちのち

引あはれとち老の志のあはれ  
三はちのちのち

一春の草 花友 花乃流 友

春の草 花友 花乃流 友



かろしそ衣もさく  
衣の色もさく  
衣の色もさく  
衣の色もさく  
衣の色もさく

一着和布 湯下 約 大後 約 浦

一着和布 湯下 約 大後 約 浦

衣の色もさく

一着和布 湯下 約 大後 約 浦

衣の色もさく

衣の付合

一衣づく 位のりはる 俵せ 衣の色

衣の色もさく

衣の色もさく

衣の色もさく

衣の色もさく

衣の色もさく

衣の色もさく

衣の色もさく

衣の色もさく

衣の色もさく

衣の色もさく



橘橘のちりりし 郭郭のちりりし  
卯花卯花のちりりし

短束 名集の花 為指 山

月月 郭郭

山山 郭郭

夕夕 郭郭

汗汗 郭郭

郭郭

郭郭

郭郭

郭郭

五月雨五月雨 郭郭

一若菜一若菜 郭郭 山乃京

山山 郭郭

月月 郭郭

山山 郭郭

山山 郭郭

山山 郭郭

山山 郭郭

山山 郭郭

山山 郭郭







参り玉ふも七夕出あはれ  
おとせふもまらふうらま

一巻三竹 若色 川邊 池

夕涼 三三 湯長 羊角 湯

定 昔者 乃好 三三 羊角 湯 川邊 池

月 運 此 羊角 湯 三三 月 運 此

夕 屋 三 道 乃 羊角 湯 三三 夕 屋 三

蟬 乃 三 蟬 乃 三 蟬 乃 三 蟬 乃 三

一首 蒲 三 池 沢 水 汗 一 五月 雨

汗 三 汗 三 汗 三 汗 三 汗 三 汗 三

川 三 舟 流 此 川 三 舟 流 此

奥 別 庄 乃 派 三 橋 以

草 蒲 乃 三 三 乃 橋 乃 三 乃

五月 雨 小 乃 三 乃 草 蒲 乃 三 乃

一 三 乃 川 三 池 乃 三 乃 三 乃 三 乃

一 乃 乃 三 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

柳 乃 三 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

三 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一 橋 三 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃



三月廿五日 夜 行場

孝子乃翁 妻 仙人

橋中乃仙とて仙人妻とて申すは橋中

とてとみまは仙人妻とて申すは橋中

高山の口 橋中とて

一百五乃夜 右道の橋右道橋とて山階乃

水井 住吉 筑波山 古澤宮

一着并ニ堂 田 窓 行 庭

川原 水邊 里 六月雨 露

竹節乃涼 三 垂 木の葉 雨

一橋 五月雨 庭 山りく 苔

ゆめ ゆめゆめゆめゆめゆめゆめ

郭公 折鶴 山をまわつてゆく

小舟 あつちのあつちのあつちのあつち

あつち あつちのあつちのあつちのあつち

五月廿五日 草木井山 為 井

堂 田 窓 行 庭

あつち 月 日 窓 窓 窓

草木 井 山 為 井

川 橋 窓 窓 窓

窓 窓 窓 窓 窓

五月廿五日 窓 窓 窓

窓 窓 窓 窓 窓

窓 窓 窓 窓 窓

窓 窓 窓 窓 窓







筑前山形石橋 筑前山形石橋

一程東 知易 郭云月

橋 蚊 あめりた 夏風集

一水鶏 あめりた 水道くさ

川道 田 津月 くさ

西東 あめりた 夜のあ

古川 あめりた 三舟

一柳 あめりた 五

神垣 あめりた 夕夕鳥

月 神山 あめりた

家山 あめりた

手野毒 あめりた

夜火焼 あめりた

一水 あめりた

山乃具 あめりた

九幸 あめりた

涼 あめりた

志見山 あめりた

松 あめりた

一石竹 あめりた

涼 あめりた

山 あめりた

朝 あめりた

朝 あめりた

朝 あめりた







深き瀬の底乃と向く女よめの扇の風

具はわささ井の姫ひめはけしへいさりて  
幼玉のこころ扇ふけしと書きて海へ  
身をまけけりしと書るのせと云  
ふと云也

弟乃京 名余なをを安んずとけり  
おぼろ月東の内侍うちわらひのこがきとん乃  
介ととなく浪なみをよと色いろはいたま  
おとさめいしと名とて名余なをは  
之扇と云り別道わかみちはとて討つ

去身こみもやと清きよの鳥とりもとて京みやこに  
そ勝月東かつげつとうはつとて

月陰つきかげ重山ちゆうざん拳こぶし扇あふぎ喻たとへ之の爪息つめいき大屋おほや勅しやく料りょう訓くん  
右詩心 唐 堯代 九年 大雨 降 之 殷 代 十三年 風 不 吹 十 日

一原いちげんきき水みづ色いろ橋はしの上のうへ 松まつ陰かげ

岩根いわね乃道のちみち 夕ゆふ立た 村雨むらゆ

うわ月つき 蒼あお木き陰かげ 初はつ結むす

竹たけ乃の吹ふ 萩はぎ乃の聲こゑ じ

いとし 柳やなぎ花はな陰かげ 一ひと葉はあぬ

あろろ木き 同上のあろろ木のわらわら

夕露ゆふつゆ ぬ 夕露の清く色あつ葉衣

松まつ乃の岩いわ乃の水みづ乃の結むすひひ乃の妻つま乃の鏡かがみ

橋はし乃の木き陰かげ 正る也 岩いわ合あひ

山陰やまかげ乃のけい乃の付つ合あひ こころあ

一海いちうみ松まつ三浦さんぼ浪なみ破やぶ志こころ乃の花はな岩いわ乃の

松陰まつかげ あぬ人ひと 大おほ後ご 若わ乃の星ほし

菊きく乃の風かぜ 伊勢物語より











州に正と頌々言の風は秋立目より  
秋来ると目ふちふらふらと秋の風を  
二葉友三初秋の風 柳涼しき

梧桐葉の如き下葉 相も付

但柳葉を初秋の風とていふは誤り

川邊池涼し 秋暑 露

一柳葉 河風 浪り舟存 門

道邊乃露 初秋 月涼しき

花 梅るくけり 花の葉あり

一畑 林涼し 山陰 山里にあり

森 市法 木枯 道 夕暮の道

伊弉山 大江山 母波 入日涼し

氣のちむら 下葉の如き 秋の葉の如き

木ありと 思 味 夕暮の如き

畑乃初冬 涼 香乃宿 しのび

日の言のこころか してて

畑乃晴 山陰 夕暮 風り 秋陰

七夕 亦 月 琴 扇

一乃羽衣 一帯 焚 香 河 舟

海 舟ありと 思 味 夕暮の如き

早合 亦 涼 水 夕暮の如き

いなり 表 秋 神 とも 秋の如き

一秋暑 亦 水の如き 夕暮の如き

故乃老 例 乃 ぬ 碎 是 乃



秋涼 一 柳 友 烟 生 啼

月 堂 村 菊 松 風 水 邊

一 相 乃 葉 二 舟 の ま ち 村 の ぬ ち

枯 落 梧 桐 葉 あり けし

一 扇 垂 三 揚 乃 月 堂 四 園

涼 風 吹 くる 扇 ぐ 秋 の 白 露

袖 風 年 乃 久 ち や 蚊 の 煮 ず

い ち 葉 成 子 乃 初 風 之 林 の 漏 煙

聚 念 別 乃 名 跡 深 谷 右 近

一 寺 三 村 花 舟 夕 露 夕 風 鈴

月 花 舟 宿 法 儀 種 ごと

出 乃 香 乃 露 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

花 舟 寂 寂 満 元 の 下 葉 宿 宿 宿

古 江 表 乃 乃 一 村 宿 生 乃 乃

一 松 古 三 草 乃 古 乃 山

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一 葉 三 付 合 乃 乃 乃 下 葉

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一 松 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃



一 常陸 常陸野 常陸山

一 常陸 小倉の松 常陸山

常陸野 常陸野

一 常陸 雨出 常陸野

夕陽絶 常陸野 月 常陸野

常陸野 常陸野 常陸野

神の洞 常陸野 常陸野

常陸野 常陸野 常陸野

一 常陸 秋風の詠 常陸野

常陸野 常陸野 常陸野

常陸野 常陸野 常陸野

常陸野 常陸野 常陸野

常陸野 常陸野 常陸野

常陸野 常陸野 常陸野

常陸野 常陸野 常陸野

常陸野 常陸野 常陸野

一 常陸 田村 常陸山 常陸野

常陸野 常陸野 常陸野

常陸野 常陸野 常陸野

常陸野 常陸野 常陸野

常陸野 常陸野 常陸野

常陸野 常陸野 常陸野

一 常陸 常陸野 常陸野

常陸野 常陸野 常陸野







一為ニ虫非ハル露 森 古流

古流 古塚 神高の神

山高の神

尾花ニ付合日事ニ 思ハ草

古井 尾花高の神

小倉村高の神

野 高高の神

一廿帛花ニ 野 高 儀儀村

高高の神

男山 依見乃里 高

二月ニ 石出 床 高 云

高 扇 高 高 高

高 水色 山 高

夕陽 高 涼 高

持衣 高 南 高 月下 高

高 高 高 高 高 高

高 高 高 神 高

高 高 高 高 高 高

高 高 高 高 高 高

高 高 高 高 高 高

高 高 高 高 高 高

高 高 高 高 高 高

高 高 高 高 高 高

老 高 高 高 高 高



一と宵の月一ノ新琴酒

初塩 佐吉乃市 九月十三日

七娘の 七娘の 七娘の 七娘の

小倉山 小倉山の 小倉山の 小倉山の

一晴三回 津道 川道 新夜

秋の衣 秋の衣の 秋の衣の 秋の衣の

噴月一ノ 好光儀 好光儀の

噴の 噴の 噴の 噴の

け奇の け奇の け奇の け奇の

一花三中 小鷹狩 病

月三の 鷲 鹿 秋三の

喜 喜 喜 喜

一玉糸三中 玉糸中の 玉糸中の

音三思 月三と 名と 價と

善灯 善灯の 善灯の 善灯の

年三の 善 荷三の 玉糸三の

一芭蕉三 枯風 古寺三の 庭 魚三香

定三の 芭蕉三 定三 外三の 庭三の 魚三香

蕉 扇 蕉扇の 蕉扇の 蕉扇の

一楸三 楸の 楸の 楸の

濱三道 行山 小舟 芽茶三の

一鷲三 井 萩 尾 尾 秋風

深草山三 井 尾 尾 秋風

深草山三 井 尾 尾 秋風



本乃山（山）のたらの木の花の香も外伝く

一 小鷹得（三）花村 あり 月

約 酒匂 （神傳） 花咲法

信傳村 常傳村 大舟里

源氏大舟の里のあけつてたりのあ

こゝあつて大舟のまゝり道より

少鷹をけしひまゝにまてはつて

まんをまてそのまゝに松風のまゝ

あり まんとしたたくと云ひ

一 穂屋（三）田守 北市井屋

尾花の穂屋ありは村の志（秋）の穂屋

一 早月夜 月（五）の夕（七）月夜（九）の夕（十一）

之身鳴る 堂元 稲妻あり

漢文のよきあり

一 乃（三）病 枯風 好光

核名ありすい 慈心 おひさど

着る者 花乃者 扇のひき

一 乃（三）風をく 菅 病

月 稲妻 水色まよ

一 葛（三）岩の 松乃指 古塚

古の塚本 古行路 宮井

定津山（山）のまゝり下道な地く



一葛葉、松竹、時、三月

是、病、疾、出、異列、悲、山

水、董、思、水、之、此、思、之、高、の、り、也、

和、植、和、列、、和、列、、和、列、

一守田、衣子、の、落、和、列、、和、列、、和、列、

一守田、衣子、の、落、和、列、、和、列、、和、列、

一守田、衣子、の、落、和、列、、和、列、、和、列、

里、人、の、月

刈田、和、列、、和、列、、和、列、

鴨、一、和、列、、和、列、、和、列、

福、業、和、列、、和、列、、和、列、

又、和、列、、和、列、、和、列、

一、和、列、、和、列、、和、列、

一、和、列、、和、列、、和、列、

月、山、の、落、和、列、、和、列、、和、列、

也、和、列、、和、列、、和、列、

一、和、列、、和、列、、和、列、

柳、業、和、列、、和、列、、和、列、

一、和、列、、和、列、、和、列、

月、和、列、、和、列、、和、列、

一、和、列、、和、列、、和、列、

一、和、列、、和、列、、和、列、

一、和、列、、和、列、、和、列、

一、和、列、、和、列、、和、列、

合、和、列、、和、列、、和、列、











一 曲あそびの行のありき 高

音 之入のよきあること

一 鳥の林の井山を以てゆりて

木の 雲の行 田

一 稲妻の月を記し毎夜

心やの 物産の傳る枯風

思ふも 木乃の涼し 夢の世

るるる 海へ 首 雉

おろききる 森

一 名に舟 道を通る流るる

じくし舟

舟文 伊勢の舟官のまへに

一 梁の山嶺の園 山は 梁 舟

世 舟のまへに 秋風を 様あり

一 推の山里 官治の山法

古の舟を 舟のまへに 舟のまへに

けり 舟のまへに 舟のまへに 舟のまへに

舟のまへに 舟のまへに 舟のまへに

舟のまへに 舟のまへに 舟のまへに

舟のまへに 舟のまへに 舟のまへに

舟のまへに 舟のまへに

一 喜枯の 舟 舟のまへに

舟のまへに 舟のまへに 舟のまへに

舟のまへに 舟のまへに 舟のまへに

舟のまへに 舟のまへに



一葉 三 離 庭 苔 川 乃 水

落 月 あまの月 離の庭の月 月 色 山 乃 月

寂 あまの月 離の庭の月 月 色 山 乃 月

秋の 露 あまの月 離の庭の月 月 色 山 乃 月

酒 年 あまの月 離の庭の月 月 色 山 乃 月

あまの月 離の庭の月 月 色 山 乃 月

星 あまの月 離の庭の月 月 色 山 乃 月

仙人 あまの月 離の庭の月 月 色 山 乃 月

芽子 送 命 あまの月 離の庭の月 月 色 山 乃 月

あまの月 離の庭の月 月 色 山 乃 月

あまの月 離の庭の月 月 色 山 乃 月

あまの月 離の庭の月 月 色 山 乃 月

あまの月 離の庭の月 月 色 山 乃 月

あまの月 離の庭の月 月 色 山 乃 月

あまの月 離の庭の月 月 色 山 乃 月

あまの月 離の庭の月 月 色 山 乃 月

あまの月 離の庭の月 月 色 山 乃 月

水 大 升 あまの月 離の庭の月 月 色 山 乃 月



ひねりしれいさきうきおのりてく前より  
前より云

一汗をきりし三葉歌ゆく信をよむは  
八月十日

秋の月一こそ神衣の色

雪をぬぐ次九重は生衣を

玉衣

一紅葉ニ鹿竹の松山歌

秋風菊葉新艶大葉は色

あうり酒林間燈籠焼紅葉

車停車氷若おし楓葉吹く

小倉山小倉山より紅葉へあそび  
二夜の山寺よりらん

白川雲大舟川 定法

五田五田の紅葉  
高の五田

一正木をみし松の山風 涼風色

旅あはれ 涼衣

奥の山をみたり 舟の事とく

葛城山川原の山と山風の  
さうさ本の葛城乃山



冬と身合

一時雨ニ紅葉散るもの也 紅葉

月よりきて風を吐く山と

穿て鹿は宋人坊

松風も音川音 音音音音音 洞

松の宿り家 枕よりき

香山の音 音音音音音

甘きく甘き山と 音音音音音 蜂乃と

月夜待き松の音音音音音の音音音音音

洲音月より音音音音音 音音音音音

木の葉散る音音音音音 音音音音音

一霜ニ 音音音音音 音音音音音

月 音音音音音の音音音音音 音音

志茂 岩 音音 柳

花火 菊 音音音音音 葉の音

琴 音音音音音 音音音音音

病 山 音音音音音 枯柳 音音音音音

材 橋 音音音音音 音音音音音

暮る月 月照平山 音音音音音

鐘 音音音音音 音音音音音

音音音音音 音音音音音

音音音音音 音音音音音

音音音音音 音音音音音

音音音音音 音音音音音







内河をよる海の細末は清き水なり

一河づも三浦川なよ竹まいく

柳の枝まきよふ 芦折外まき

水くさしをけりあてし

泉川 泉川はまきのうつりては川

一唐竈 三吉山 炭山里

山 大原 山形

大原も山形の唐竈を造りては

一本松 三月暮 山里あり 松林

森 森のうしろ 雉立 萩原

蛸 蛸は松林ありては竹の

源氏

一子島 三吉山 漢浦 漢浦 川

田 霜月 氷池 若原

外河川の茅束風をらそを海

株より 川のうしろ 魚株より 川のうしろ

増海 外河川は増海ありては

外河川の魚のしほき 外河川の魚のしほき

ねえ侘 ねえ侘は源氏治の事なり

友徳治の事 友徳治の事

源氏 源氏は源氏

治 漢路 石 勢 鴨 漢

吉井川 大井川 清 漢 漢

野 狩 傷 野 狩 傷



一水号三田 表乃斤削氷 浦

入江 江舟 古川

新巻 日あけの川 舟に乗りていづるあり

氷巻 氷を巻いてはいたるく川の氷

鴨 山陰乃若粘 岩 舟に

新巻 交筆川

か 鴨のくく川の舟をいづるあり

一氷 三川乃月 氷 氷巻 氷巻

氷巻 氷巻 氷巻 氷巻

流連の舟 舟 舟 舟

山の舟 舟 舟 舟

表乃月 氷 氷 氷

氷巻 氷巻 氷巻 氷巻

氷巻 氷巻 氷巻 氷巻

一敷 三竹乃葉 世系 世系乃凡

板屋 板屋の神 舟 舟

石破 石破の世 世 世

舟の世 舟の世の世 世 世

舟の世 舟の世の世 世 世

舟の世 舟の世の世 世 世

舟の世 舟の世の世 世 世

舟の世 舟の世の世 世 世



一落葉 三山風 松伝 松の落葉

岩合 山崎 時夜 寂 山里 びり

けしき 火舎 月 火舎 月 火舎 月

山 火舎 山 火舎 山 火舎 山

神書 凡 未 紫 入 教 時 我 三 三 三 三 三 三

左 福 本 乃 陸 河 乃 乃 乃 乃 乃 乃

鳥 乃 羽 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一 朽 葉 上 月 の 故 入 高 葉 村 合 三 日

一 豐 的 トシノヤカリ 三 年 八 寸 琴

山 浩 水 神 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

新 草 草 會 ニイナメトヨム

新 草 草 會 ニイナメトヨム

一 神 樂 三 百 五 庭 寂 川 里

三 乃 上 人 弟 兼 人 酒 色

久 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一 庭 火 氷 氷 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

寂 乃 兼 兼 百 五 庭 寂 川 里

堂 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃



一水象

象は時乃春言月

年

酒はけり多る地 車

一埋火三言 昔は 老は 杖の

を水の茶地拂 水の言は 理を

うさね 埋火乃ちりに進こころおハ

焼言 只けまの埋火の

一言三冬言 けぬり泣 唐の

本より改めし 約るいし 春山月

将場 みのりけりあり言に 埋もれ

亦 けり言は 行馬乃行もわかれ

卯花 梅 花 落 葉

境の氣 移りて 時を ながるる

鶯 梅 言の月 林の月

出友の夜のをよめ白言月の今やけり

山流は 絶 山 言の月 今やけり

春山 言の月 山 言の月

一初言 十月にけり 言の月

一冬言 言の月 言の月

波 言 言の月

一冬言 言の月 言の月

梅 言の月 言の月

年 言の月 言の月

かこり 言の月 言の月

佛 言の月 言の月

言の月 言の月



老の身 世を志すは疾

同書といふは、身は世を志すは疾、世を志すは疾、世を志すは疾

わらうふ 世を志すは疾、世を志すは疾、世を志すは疾

いふは一夜成るもの、世を志すは疾、世を志すは疾

背りふ世を志すは疾、世を志すは疾、世を志すは疾

一言の結 世を志すは疾、世を志すは疾、世を志すは疾

言中乃梅 世を志すは疾、世を志すは疾、世を志すは疾

雑の生れ 世を志すは疾、世を志すは疾、世を志すは疾

一病 世を志すは疾、世を志すは疾、世を志すは疾

志 世を志すは疾、世を志すは疾、世を志すは疾

和 世を志すは疾、世を志すは疾、世を志すは疾

因 世を志すは疾、世を志すは疾、世を志すは疾

仙人 世を志すは疾、世を志すは疾、世を志すは疾

江南 世を志すは疾、世を志すは疾、世を志すは疾

一 世を志すは疾、世を志すは疾、世を志すは疾

月 世を志すは疾、世を志すは疾、世を志すは疾

市 世を志すは疾、世を志すは疾、世を志すは疾

入 世を志すは疾、世を志すは疾、世を志すは疾

目 世を志すは疾、世を志すは疾、世を志すは疾







雲乃をくむくく其の如くありて  
夜を待たずして其の如くありて  
引くく其の如くありて  
其の如くありて

其の如くありて  
其の如くありて

經云寒苦者我夜明造極  
又晝小者今日不知死  
何故造作極之安穩  
是皆經文之利

一語 神書 山向 新景 新浦

一語 雨 雨九會 呼 嗚 嗚 嗚 嗚  
わうわうわうわうわうわうわうわう

山古畑 但竹 古良

山古畑 但竹 古良  
わうわうわうわうわうわうわうわう

わうわうわうわうわうわうわうわう  
わうわうわうわうわうわうわうわう

わうわうわうわうわうわうわうわう



一鳥 少鷹村を 下田 山  
野 日叙 霜清 花陰  
亭 曉 あかり 霧 の

新 什合

一約 三 雲 運 道 支 振 立 神 津 築  
若 角 心 舟 人 舟 舟 舟 道  
将 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟  
お 夜 川 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟  
船 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟  
如 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟  
作 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟  
本 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟  
小 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

馬 下 之 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟  
寺 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟  
振 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟  
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

一 馬 上 之 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟  
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟  
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟  
馬 上 續 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟



都乃傳あしん屋ねん  
馬上相逢 紙巻頼君傳活報  
平安

武士一りた三廿一

一様 高家 高推馬屋 山陰

岩月 曉月月更おさひ

材 材 斜 踏 破 積 壺 とと

山のふい 山のふい 山のふい

西川 大升川 嵐山より

他玉 ねむす切 武家 夜更 睡 積 壺

一牛 車 里 種 わらまの記

羊列 けふんふ 桃 桃源牛 仙家 古伝

一平 橋 意田 古相 山 言合

羊列 世系

一むらび 村 名 一 一 一

高園 意雄 一 一 一 一

三木山 意山 楠 小 一 一 一

飢龍 竹 一 一 一

一夫 狩場 意月 桃 桃源 大 女 一

門守 家 一 大 逆 一 一 一

悪い あり 文 一 一 一 一

台 勢 の 文 字 活 一 一 一 一

宇治 山 法 竹 一 一 一 一

里 一 一 一 一 一 一 一 一

一福 牡丹 国 蜂 蝶 不 来 一 不 一 一







小端をへりて並日合子成りてはみれば  
ふきの葉の如くあををふりて秋の如く云

山類之甘合

一山 六 炭尾上 林床 岩道 益戸  
止る舟 野村 洲川 柳木  
架入 菊松 松橋 糸繫  
花 梅 宮 葎 空 身 風  
郭云 鶯 蟬 麻 蓑 一 月  
田 寺 清 葉 門 浪 家 海 邊

一嶺 山の付合月事也

一尾上 右月事也 与 清 松 橋

初秋 高園 高橋 糸繫 糸

一洲 六 岩 池 水波 吉羽山 渡

一石 六 糸 川 水 落 糸 橋 糸

一橋 滝 苔 池 糸 常 堂

山里 月事乃 高 月 今 月 道

一材 六 霜 岩 〇 但 岳 山 子

百 委 寺 橋 寺 糸 橋 〇

虹 沈 乃 津 乃 首 珠 小 念 山



本堂路 洞にさよふ本堂は樹洞より  
うき舟もあつらふ月乃乃

一 九折 三 約なるじ 岩北山法 井

岩の松子 鞠馬

志望 洞はやまの山道のほらわり  
く角へ絶くうまやしやん

一 林業 三 右山久の付合日事く

里田 寺野 海邊

一 畧 三 松田 葛葉 後列 衣笠山

物名 朝の原 山久の女目あ

水邊へ付合

一 海 三 舟橋 舟邊付合

茅 葛の海洞 舟の海 硯 硯の海

等 舟の海 生れ草 秋 舟の海

一 浦 三 里 谷 水邊生れ山久の  
りて付合

葛葉 推の葉 坂のり 葉のり  
みぬて也

一 漆 三 浦 永川 田 里 山 迫 三

舟に 上 謝 乃 浦 波 純列 中 島 舟 より

橋列 花 名 野 純列 水 産 乃 畧

一 濱 三 萩 松 川 水邊生れ 志 望

住 吉 吹 上 の 浦 志 望 志 望 舟



信海

大渡 廿外 陸平 不 不 不 不

一 鴻 三 川 山 沈 中 崎 明 石

中 野 垣 龜 里 家 札 流 人

松 舟 乃 海 水 道 大 舟 入 流

流 浪 二 三

一 江 三 苦 人 鴉 村 松 里 水 書

翠 分 梨 忍 門 大 舟 川 依 見

入 江 舟 乃 乃 山 合 難 波 位 一

志 舟 水 道 什 合 大 回 舟 一

一 松 三 山 松 苦 屋 屋 子 島

海 乃 柳 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

二 一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一 垣 滿 乃 島 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

松 法 道 級 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

川 垣 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

垣 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

破 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一 延 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

舟 垣 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃



一舟 水邊松 里乃中川 日入 寺人

風舟 後わ 柳乃葉 一葉散水邊

笈 引ちんけんりく乃任わ中 けむの木の舟にすわり

田 引ちんのうき波を舟のまはりに

引ちん乃添え舟に波あつるは波舟

引ちん乃舟のうき波舟の舟に波あつるは波舟

一舟 水邊松 亦松 柳

歎冬 任吉 三笠山

一堤 三田 柳 水邊川 橋

うき舟 笈 里

一池 水邊 舟 岸のやま

柳 水邊 蓮 花 柳 舟

堂 柳乃葉の舟に 舟

大澤 店 舟

柳の池 水邊 舟 舟

是草 平の舟に 舟

河名 舟に 舟

舟の舟に 舟

舟の舟に 舟

舟の舟に 舟

舟の舟に 舟

舟の舟に 舟











半乃字 弁乃乃

長市 付合

一里 三門 砌 籬 ついで 高

物 位かき 田 苗代 衣打竹柳

山野 布 うき 次 柴 人 弟列

寛 橋川 市 市人 去日

休見 志智 難波 宇次

大系 大舟

多前小里より所前より

里 河 さ 村 さ 道

往還 滋 川水 田 松原 竹の林

一家 三 君 不 塚 大 是 境

家 乃 凡 寺 政 さ 世

行 乃 山 松 卯 花 梅 の 花 舞

之 乃 家 寛 乃 水 世 入 庭

位 乃 乃 乃 乃 乃

あ 乃 た の 乃 道 湯

一 宿 乃 道 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

竹 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃







秋 秋多し 立派に神 馬

車 吾輩の車

一覽 一覽 行宮寺百歳玉乃初

栴乃戸 時りく門

一簾 一簾 窓行信力在月

螢車 下簾をく

簾 涼く神 雨晴家

窓 朝月 夜を

一隣 中垣 喜迎 喜城海

あし道 三里 園 あると付

夕影 入宿 おころし乃聲

源氏夕影のなま あき

東陵 入京 行く 志 なる あ

少 あ ち あ ち あ ち あ

くた あ ま あ ま あ ま あ

引 あ ち あ ち あ ち あ

節 文選 思旧賦

隣 人 吹 神 其 老 寒 亮

昔 う 老 漢 茅 小 成 小 成 小

唐 向 子 部 云 老 あ い ち 小 成 成 吹 其 人

北 く 宿 世 志 く 漢 茅 の こ 生 成 て と

も 漢 茅 の 中 小 成 の の た ち り ち







世の居 付合因事や 吏神 にらり

一葉乃 る 山陰 山水

の字もい 故 なり 陽家 信

一若植 三 田圃 昔の丸屋

あまの物 さす い 行折

る この是どい 吉井

引 ても 奥 を 麻 を 若植 の 吉井 の 記

張 ら ち を 付 く け い

核 の 丸 を ち を 付 く け い

一松乃 る 玉 を 玉 を 玉 の 物

月 を 詠 は 花 の 色 を 嵐 を

琴 を 引 て 故 乃 位 を 衣 を 着

一在 三 池 を 流 す 山 を 流 す 流 す

を 井 神 の 前 に 竹 を 花

まりの侍 長 を 入 る の を 記

一古 を 水 を 井 を 埋 す 井 を 出

羊 を 流 す 道 を 故 を 流 す

垣 を 電 を 乃 を 燈 を 縁 を

牛 乃 墨 を 付 く 一 を 筆 を

音 を 鳴 く 時 雨 を 夕 を 空 を 降 す

一高 を 行 乃 忠 を 人 を 格 を 人 を 行

月 を 詠 は 報 を 波 を み を 京 を

志 を 行 乃 吉 を 井 を 行







神祇

一神垣 ニカノの松 松 森

鴉 檜 神宮 任責 青

男山 大系 三山

神宮此堂乃山の神樂とよなり

庭火

一系 三系乃村合あり 御後

庭火

一鳥升 ニカノの宮 宮家 ニカノ

神 ニカノの鳥 鳥 鳥 鳥

一白本 ニカノの神垣 ニカノの社

糸 亦 松 新 田 花

川 色 山後 白 山後

流 繩 大目事 皆 月

喜 柳 亦 祈

前 代 山後 山 田 乃 前 代 山後

山 田 山後 乃 山 田 乃 山 田 乃

一 太 麻 山後 乃 事 神 亦 祈 糸

舟 乃 上 松 乃 神 山後

山 田 山後 乃 山 田 乃 山 田 乃

是 菅 家 乃 奇 天 津 乃 事

朱 菅 院 乃 山 田 乃 信 乃 事







一舟宮三片墨の柱 せいの小川

そら林 あきふら くの行馬

あきふら付らぬか殿のつらき龍院

わすれ住持所多まゝの道月夜

尺教速懐の付合

一法三寺 玉乃戸 侍乃巻

心乃月 あり水 舟 馬

車学 瓜木 新あらま

採葉汲水拾薪後食

法一入人のけね松考るをの昔学をの

一法乃巻 池乃蓮 三乃の巻

琴の法の痛也管法新竹竹

門乃車 百委 殿乃巻

法令乃庭山の付人

一佛の巻乃巻の手乃終灯

巻深乃神 侍 老乃境

一寺三灯 志のみ 小の巻

侍 井 山 終の夜 松

初の殿 鞆波 山科 安福の

志の巻の法の見 鞆の巻

願乃寺 宇治 林の巻乃巻

巻の巻の付のあの巻の巻の巻

尺教







ののの可  
ののの可  
ののの可  
ののの可  
ののの可

豊人不在三表（世に控事後）

一山休三猪（も枝の本） 康山休

ところへ 旨い道 のれ

高城 之徳野

一葎乃神 松乃下外 世後人

岩乃之 岩乃之

岩乃之花乃衣（岩乃之花乃衣）

は方伊心通所 良峯宗貞小く  
津平中入内川州はへもつみど也とく  
なめて柳葉比乃のり行方志とく  
あせと控く松乃之り行方志とく  
みく山一回とく信心とく

一聖原乃神 三言池志とふ 世後人

あつと 法又 半たの智

聖原一清とくは如く半たの智

小村 小村乃あ葉のちとく

あつと 山母あつとく

小村あつとく

入目（山母あつとく） 神の色

是の原は山母とく

あつとく

あつとく

あつとく



一本の在り下 高き 洞 雲の種

雨色 打の山松 山乃海りさ

一音をきよふ 洞 手向ふ

清と夏 郭云 まの宿ありの宿

老の祢元 宇治山 海氏

又祢の序 記念 前記 一平の記

花菱指

一むら 地氣 おとむら 記念乃境

あまの季乃魂 一平の家法

升子乃玉水 焼者乃焼

漢の本の主人 若くはうわいあめり  
は死て後及 魂を成たりを成へん

尾敷 おとむら

一草入京 撫り成りよ 洞

病を序る 弱きより 雲南

住まふる 魂 かな 枕 世枕

出入聲

一音道村 灯 洞 小巻符

一わがし 神 おとむら 病洞 出

鳴麻 儀芽 け 萩 おとむら

一後世成りよ おとむら 家と出

是名 蓮乃上 家と出



わづらひ起 侍乃てあま

まのまめはつ 後の代治りあり

子乃約束 け家山風月あり

一親三佛 佛ハ慈悲と云ふ也

其中衆生悉是吾子 經云

花乃去雨 地雲為花父母を

相つ所の門を源氏も友なる候

一親乃沈 遊生乃宿 源氏

むらたは雲乃成むとあまのま

あまのまを遊生親乃沈と候

後ゆ名ハ日影なりと云ふ事あり一乃上  
親乃沈とて大升女位候

一三手あつたり次位ありまの此家あり

福治 三年 高文道可謂孝

子ハ何事も改つて候と云ふ也

一親を三佛のほり入 たも

いと又遊生事候はつる路も志あり

是ゆ名乃上乃より卒後親を

一牧乃志 北史孝 吳極 コ

妻の夜敷乃志 そむい 親を

まもるをさむい そむい 親を



くもを敷おくらせ親成るる縁

こころ也

鳴神乃音

音 鳴るも音也

母の津も神かおらくら死て鳴珠  
乃たりまもつけ母の縁のりこみ  
り縁をりくらく〜

氷入隙の縁

日 王祥の事也

極をよ親う〜縁縁のりよ氷の  
上も神くゆをさう〜これも莫あら  
〜のりくら〜記しをり

竹子おつる

日 秦乃孟宗の事也

雪中に親竹子城縁〜竹子中にも  
〜雪に〜雪に〜雪に〜雪に〜雪に〜  
亦乃子出〜

桑乃た〜

日 老萊子の事也

老ら親成耐ん〜我もし年け  
〜老ら親成耐ん〜我もし年け  
〜老ら親成耐ん〜我もし年け

一子をおよ

日 仲舒の事也

里を〜宿末ぬ〜り仲人の牛は〜  
焼神乃縁よ 猿あ〜

病

夜病憶子 病 病也

老

老 老也

是の石入入道入可〜此上縁  
冬〜よみ石を〜行〜の可也  
人の親乃〜

一乃〜

日 巢木の事也



竹乃伴たる光

竹乃伴たる

翁竹中光五城之れし三子其  
人なきはるひくも屋敷内

光くけみ城あり立名城さき竹

切も非く名付世果るおのつ

かせうしそらうらみこもて

ふいしら後みあくも飛ひやう

蓬葉ハクシは銀城根く金城く

と白金城言うし高木を枝

を獲て云々りら乃みこたくまを

あひめて玉乃枝城化送る河也

くわらる玉乃るこくまくはわみ

なびつど先天人の道なせ

費のけりらし山あく霧るを付

秦のせし趙魯く智伯く玉を

あつそいぐ智伯のこまれうの御時

臣下は程嬰を拵回く二人乃兵を

迎付く三本乃るもみ城れし智

伯の遠言みまうせそ枝子城の道そ

城を為るえんるもを五人しけりら

くり拵回ハ我子城を表乃智伯の

み也そあく霧るり行嬰ハ主君

乃子むこもこくそあつるもみ枝

拵回あり前城趙魯みは道きく

玉忠城は仕り拵回名家あつあを

まうこもあつあを拵回名家あつあを







一とくれを命三洞記念を道

ありしあはけり 後世を袖ふ

枯叶の電ふる

わさ自約高らわさ命りそ旅のあふ

横城のりり世あふん心をむけはる

ま遠の命もまはりの内も付梅さる

是原氏乃水守也昔斗入るあふ

百歳をむかひけり

けりしあはけりあふ

是八原氏乃水守也昔斗入るあふ

今八原氏乃水守也昔斗入るあふ

今八原氏乃水守也昔斗入るあふ

散花に吹風一ふりむ

一玉を三梨今柳の落 存る落

一玉を三梨今柳の落 存る落

一白髪三夜連 糸一夜白髪一

障子に夜入り 柳 糸結く

その時皆わさけり

賢も了仕り

高山乃水守也 遠公 緋里季

兼苗公 角里先 二乃四人秦乃

靴をばすく高山乃水守也

竹負肩 皓白と白かきり 津言祀乃

けりく大子惠帝乃原りて改をけり仕り



亦云 老子胎門カ五時五王代ナリ  
生ん事少ク一母乃胎カ半斗カ  
白髪一々生れん則老カ名付リ

一老 昔およ 祿元倫

之入成りて家 念の珠成りて

月 古き月成りて新 友もなき時

松 露 鶯 森乃下草

大慈大悲の心老の心 弱も老の心 念成る

一昔およ 羊乃店 老の祿元

郭云 昔およ 羊乃店 老の祿元

猶 情待 羊乃店 老の祿元

記念成る 老の祿元

古 傳 乃 志 雲 長 極 心

難 波 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一古 傳 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

羊 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

四 傳 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一 傳 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

引 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃



何ぞと前々いふ人胡女も後々氣を

別角もいふおの表のこころちかぬ後人の

是源氏乃山寺也

須麻也いひくへん時けえ乃上と切を

別ても教とて南のむかしは境域とて

此乃上世也

一前 三 釣 たち 唐鏡 神ノ前

石山寺 昔良年ば作御回中

時中老前釣をやうと云ふ前良年よ  
向くより我けしむ也けしむ報者乃夫  
地とて夫のぬかき石とみ唐鏡とせし  
と云いし也石山寺是也

慈し付合

一 與 垂 三 八 一 ち ち ち ち 中

待言 曰 一 蓮乃上 中 幸 得

七夕の言 楊貴妃 玄宗云う 幸ふ

與 三 八 一 ち ち ち ち 中

時月も又津うん 記 花 咲 山 咲 け せ

一 與 たり 三 八 一 恨 あり たり 候 中 七

親のあり 姓 升 子 の 親 水

一 あり 與 三 八 一 愛 人 たり 蓮 乃

吾人乃 託 念 横 三 ち ち ち ち 中

ち 花 の 表 花 一 の ち ち ち ち 中

慈



かきりくをいそし揚げきし小待成

右山所の守り山所すき業平もつら

ゆふあきししようり山所しのそり

一あきらむる三恨三弁はらひ

信物後にあきらむるはらひをける男共  
あきらむるはらひの事成へし

種人病あはれ病病病病病

舞中入内者

一衣く三床の夜三治あきき

あきらむる 治と恨 治枕者 神を

人目とあきき 羨の深月夜

ゆふの契と定むる

別三付合月三ま三こ三じ三る三こと三道

川出とまよふ 雲路の長舟

一ぼろ三朝三別三はらひ三又三梅三朝三の三夕

衣の梅者 羨のうれき 洞

能念三の三ま三の三言三の三義三

夜三の三ま三の三花三の三夜三 あきらむる 花をまよふ

一あきらむる三梅三の三道三の三道三の三道三

あきらむる 灯の光 外の人

喜三目三の三ま三の三あきらむる

信物梅原業平あきらむる事よき信

あきらむる 目よきあきらむる







夏斗や赤装 夏の夜の夏斗や赤装  
夏斗も汁合也 いささかさへんを赤装の乳

か事をもと斗衣の三吉村の川の砂の  
くき舟の毛し昔歌の小船の三吉村  
くは川へかきまをみせし

一節句 三恨 二川 一 神小祈所

教 二又 一と 三運 二と 一 三又 二と 一事 三行 二き 一

悪 二之 一 色 二 好 一 ね 郭云

花 二 入 一 抱 二 ぎ 一 ね 約花生此

時 二 ぬ 一 せ 二 色 一 せ 二 ね 一 松 二 玉 一 好 二 月 一

本物の時 二 色 一 せ 二 ね 一 松 二 玉 一 好 二 月 一

花 二 入 一 抱 二 ぎ 一 ね 約花生此

とほまの赤奇 権の赤院の赤奇  
道 一 赤 二 奇 一 二 赤 一 奇 二 赤 一 奇 二 赤 一 奇

一 二 赤 一 奇 二 赤 一 奇 二 赤 一 奇 二 赤 一 奇

赤 二 奇 一 二 赤 一 二 赤 一 二 赤 一 二 赤 一

赤 二 奇 一 二 赤 一 二 赤 一 二 赤 一 二 赤 一

赤 二 奇 一 二 赤 一 二 赤 一 二 赤 一 二 赤 一

赤 二 奇 一 二 赤 一 二 赤 一 二 赤 一 二 赤 一

一 二 赤 一 二 赤 一 二 赤 一 二 赤 一 二 赤 一

赤 二 奇 一 二 赤 一 二 赤 一 二 赤 一 二 赤 一

赤 二 奇 一 二 赤 一 二 赤 一 二 赤 一 二 赤 一

赤 二 奇 一 二 赤 一 二 赤 一 二 赤 一 二 赤 一

赤 二 奇 一 二 赤 一 二 赤 一 二 赤 一 二 赤 一

赤 二 奇 一 二 赤 一 二 赤 一 二 赤 一 二 赤 一



一 ちららふ三つあゝいふひか  
うか現今 回合人 おらあ高か  
よし争はらぬとらた

いひひもき 約束をな 白切

親ふきこふ もももあはれを思

木言を起ら 海は海の上とじつを  
後者つたのこらこ

升尚ふり 伊の浦葉年とていふ  
らり者幸ふとていふ

あまひ しん氣と水とていふ

一 物のあはれを恨 ねこ 祈

おらあい 又別るはた

舟のりなぬ

小町 小行替の信はりのん

別一宿を むつて月津氏よむげ

なれば 左様のあの方おもとて

宿を誰別 一ちあ

車あ くま

夕教のあ くま

夕教のあ くま

一 たびあ はら

二 度 あ

情を あ

君小侍 あ

旅の宿 あ







中垣の苑

こみきたりしよるふ

一卜の帯

糸

生身と結心 懐妊の帯

形乃の帯 南乃風

唐井二部と考と帝王(一)と(二)の時帯  
と(三)と(四)と(五)と(六)と(七)と(八)と(九)と(十)と  
一乃と鬼はよかよと志れと云つり

一升子のむ川

櫛の尾と長流

人まの糸の物付はまよる升子の後や  
あるか女のまよるやうと云ふと云ふ  
まよるまよるまよるまよるまよるまよる  
まよるまよるまよるまよるまよるまよる  
かの女まよるまよるまよるまよるまよる  
まよるまよるまよるまよるまよるまよる  
道香の升子の帯はまよるまよるまよるまよる

一卜細

うい

おのり下細とも横入夕に京まの糸  
是の業草其奇(伊物)青か(こ)の  
まよるまよるまよるまよるまよるまよる  
二と結の細と櫛とあはるまよるまよる  
花 毛の下細(一)と(二)と(三)と(四)と(五)と(六)と(七)と(八)と(九)と(十)と

一夏

まよるまよるまよるまよるまよる

別

まよるまよるまよるまよるまよる

郭云

小蝶 樹のまよるまよるまよる

百年の帯はまよるまよるまよるまよる

親の付

伊氏治と云ふのまよるまよる

帯乃

まよるまよるまよるまよるまよる



弟を夕方の時泣く泣くおぼす  
と愛いさく

御赤小治の御心よりあまの世にたごき御心  
栞本やこのまよ一夜寝るまよつたつた  
それゆへに御心は御心は御心

朝乃こし夕の雨

世の義王様は御心をよまよ山乃神女も  
あまの御心は御心を御心を御心を御心を  
行やては御心を御心を御心を御心を御心を  
陽春の下に御心を御心を御心を御心を御心を  
御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を  
御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を  
御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を

御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を  
御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を  
御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を  
御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を

御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を  
御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を  
御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を  
御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を

一返りいづらんは 伊勢物語は伊

男の國一あまの御心を御心を御心を御心を御心を  
女をよめる御心を御心を御心を御心を御心を御心を  
あまの御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を  
あまの御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を  
あまの御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を  
あまの御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を  
あまの御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を

男の御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を

女をよめる御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を

定津山 御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を  
御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を  
御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を  
御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を御心を



一申立ニ忠入 弁いせの中平

又おふ後山に山崎わ舟入り山崎

舟の楫竹の楫 籬乃花

方をけり 吉平小三 ちあ

一穂ひ 舟さ 枕つ 約ふ けり

月ふ 古た 枕た 池

侍ま 娘ま

一文ふ 舟あ 娘う 川

後の朝ち 中あ 年

娘の 所て 一は ち

一あ中 事た 二報 向あ 忠さ あり

おの つつ 表は 忠忠 約

糸竹 の志 ちち ちち ちち ちち

一逢夜 二む 三い 云花 面を ちち 昏

娘と 鳴ぬ 娘こ 小ふ 洞洞

七夕

一あ康 定定 二文 のち 一は

親の のち 巾巾 七夕の 終終

園の ちち 焼焼 杉杉 ちち ちち

見と ちち

一付ニ 夏夏 鏡鏡 池池 水水 乃乃 月

す親 の池 志志 ちち 池池 乃乃 ちち



家伝 秋の垣後 秋の垣後

休日の世のまじりて 休日の世のまじりて

一介後の染 一介後の染

花 花

花 花

一あまより 一あまより

糸の端 糸の端

夕教の宿 夕教の宿

糸 糸

一あまより 一あまより

神小巻結 神小巻結

信濃小丸院のみ 信濃小丸院のみ

のた のた

車 車

車 車

糸 糸

糸の端 糸の端

日 日

の の

糸 糸

糸 糸

糸 糸

糸 糸



夕敷の宿 中川乃宿 たははば

一うれ出れ うれ 申一わ

羞心 袖の糸を焼たはむ川

糸に糸麻 糸 糸ふらふ 糸

糸 糸

一うらあふ 糸 糸 糸 糸 糸

糸 糸 糸 糸

糸乃下を糸 糸 糸 糸

糸 糸 糸 糸

一親乃糸 糸 糸 糸

糸 糸 糸 糸

糸 糸 糸 糸

糸 糸 糸 糸

糸 糸 糸 糸

糸 糸 糸 糸

糸 糸 糸 糸

一糸 糸 糸 糸

糸 糸 糸 糸

糸 糸 糸 糸

一糸 糸 糸 糸

糸 糸 糸 糸







小也... 考三... 也... 國中... 子解... 也...

一袖の被書、衣く乃沈夜の網

又はの春 記念の衣 扇をも

花の下外 暮らさるも梅 櫛

もをつむ みるよらるるも

一うめ... えい... 振... 振...

狩備... 狩備...

一うめ... 暮... 暮...

わ... 梅... 梅...

梅... 梅... 梅...

梅... 梅... 梅...

一うめ... 暮... 暮...

梅... 梅... 梅...

梅... 梅... 梅...

梅... 梅... 梅...

梅... 梅... 梅...

一うめ... 暮... 暮...







神宮よりふくまぬ御事也

女乃く阿波の御事也

又く阿波の御事也

一 藤原の御事也

梅の御事也

花の御事也

鞠の御事也

この御事也

一 藤原の御事也

髪を洗 身も洗

一 古き食ふべし

聖の御事也

けし御事也

美の御事也

一 狩撃の御事也

一 古き御事也

古の御事也

一 古き御事也

一 古き御事也

一 古き御事也

一 古き御事也

古の御事也



ふらりあるニ結言雨 人目乃雲

月よのしめり下段の雲より

一宵くニ恨る中 灯の氣

灯と宵はなると

一結句のニ床の洞 蝶乃はく

灯より 月をかこふと

部云 花をよめるは

雜之付合

一奇ニ驚 蛇 梨 糸竹

百歳の更 花の下 月の下

七夕の言 那由とる家 上野の

あさくぐ とこのさハ 年

神意 筆武 任

神代 てる月、雨を あえ

喜舞の色を 拾遺歌

室所乃庭 漢

室所乃庭 漢 東西

もふ山嵐 花











花柳の酒雨をさす

花のえよりけしき流輪の言かけしは花柳の酒雨をさす  
酒屋の侍の言かけしは花柳の酒雨をさす

一車三幼者 柳の場 糸の場

けりし門半 柳の場

糸の場 柳の場

糸の場 柳の場

一酒盃 糸の場 柳の場

菊の場 柳の場

柳の場 柳の場

神楽の場 柳の場

柳の場 柳の場

七の場 柳の場

一解 柳の場

柳の場 柳の場

柳の場 柳の場

柳の場 柳の場

柳の場 柳の場

柳の場 柳の場

柳の場 柳の場

柳の場 柳の場

一鐘 寺別 柳の場



約言 舟 東洋海客到 客船

夕 曉 祢えんはあ 老の衣

新衣 松東の奥 蟬 と蟬よ

花の散 あいののこ 小花やちあひん

清の雪 初鹿山 那波 志望

きぬ 清の雪 いろ あつた 後の時の巴

一暮 灯の氣 酒 友をい

仙人 橋の法 小舟 源氏がこ舟

中川乃宿 源氏 七よは入

菊と子杉 今上の西川 中川

点門 ひげ 後 い 幸成 の 也

星 夜 夜 目被寒 星照 恰似仙羽 今昔

唐 唐 唐 唐 唐 唐 唐 唐

芥の柄杓

い い の の 柄 柄 杓 杓

善 善 の の 質 質 と と 玄 玄 者 者 湯 湯 山 山 入 入 仙 仙 人 人 志 志 意 意 打

可 可 小 小 初 初 子 子 高 高 ち ち ら ら 小 小 と と の の 元 元 柄 柄 杓 杓 ち ち ら

七 七 世 世 の の 孫 孫 よ よ う う づ づ り り と と 云 云 こ

誤入仙家 誤入仙家 流 流 為 為 事 事 思 思 返 返 洞 洞 里 里 後 後 逢 逢 七 七 世 世

産屋 産屋 ち ち ら ら の の 中 中 打 打 ね

一屏風 一屏風 三 三 百 百 交 交 の の 内 内 中 中 鏡 鏡 乃 乃 音

あ あ 馬 馬 ま ま ち ち ら ら 例 例 の の ぬ ぬ 床











わき流あり侍面帳はしなり

東海 もろのしん 唐山 もろのしん

一石迂三流一 ぬ衣の巻 世はらむ

都をひり 神も祈

半橋ひ流舟 利国承平流ひ

毛の打端 毛の打端流し

竹の垣 松の柱 源氏流た

古傳をひり 源氏流た

源流 白髪

源長 源長

一仙人 三 仙人

橋 橋

赤の林 酒砂

新二層 柴本

一雨三 雲

育毎 小

業平 共

松風 本

郭云 花

橋の宿 つ

里人 河

山







古唐小桑といふの記書り入者也  
あつた記よふれは月とてくち中  
てりつるよあひいり

祭の儀 花の束法なり

世の中、其れりなをそきり独れぬる事  
一友を志すふ友のまよひはよのいふ後

あらぶるも 宮れ目

けし小とくあつ一人 花束の束の言

翠今の結を多り 結をよま

侍子<sup>シヤウシキ</sup>伯牙<sup>ガ</sup>二人の友 翠れ上りや

る期を後伯牙相れ結をたつてむつ

と胸やもよすお女のさこは世にいと

友と知るこまはけ古事也

一友の吏 侍りのあつと 鞠の束

物入の場 酒の席 赤の席

月花 侍を 市人

花の轉る 一人づつ 花束

埋火のまや

一神の吏 月付合 思と返り

まうかはずし 年 花束

蘇高<sup>スウカウ</sup>はらへ合 高の神あり

なと神とのまうらふはあつ

一巻のあつ 二後見 世つこは 酒也



雲井戸（雲井戸）の山守（山守）信人（信人）も物家  
此の往還（往還）あま〜田も作（田も作）  
雲乃小（雲乃小）さりい 路（路）宮（宮）可（可）  
川水（川水）さし（さし）昔（昔）多（多）湯（湯）川（川）の（の）雲（雲）身（身）  
力を（力）あつ（あつ）と（と）ぞく（ぞく）ら（ら）ふ（ふ）此（此）五（五）轉（轉）次（次）  
是（是）定（定）量（量）る（る）古（古）も（も）也（也） 吳王（吳王）と（と）越王（越王）  
五（五）合（合）戦（戦）る（る）と（と）人（人）ま（ま）い（い）越王（越王）知（知）意（意）  
越王（越王）戦（戦）ふ（ふ）と（と）人（人）と（と）成（成）て（て）合  
袍（袍）山（山）小（小）ま（ま）う（う）村（村）范（范）曼（曼）も（も）色（色）斗（斗）孫  
と（と）ら（ら）じ（じ）西（西）施（施）と（と）云（云）義（義）人（人）と（と）吳王（吳王）を  
越王（越王）の（の）命（命）と（と）ゆ（ゆ）か（か）れ（れ）ら（ら）る（る）合（合）戦（戦）古

の命（命）と（と）言（言）ん（ん）事（事）と（と）ら（ら）り（り）て（て）孫（孫）吳王  
と（と）対（対）れ（れ）越王（越王）句（句）踐（踐）の（の）布（布）と（と）連（連）と  
角（角）て（て）と（と）人（人）ま（ま）い（い）越（越）の（の）古（古）尺（尺）ゆ（ゆ）ら（ら）く  
政（政）と（と）勇（勇）小（小）仁（仁）と（と）人（人）ま（ま）い（い）切（切）成（成）る（る）遊  
力（力）退（退）天（天）の（の）道（道）か（か）ら（ら）と（と）心（心）ゆ（ゆ）大（大）孫  
下（下）小（小）久（久）五（五）と（と）長（長）大（大）切（切）と（と）も（も）も（も）不（不）  
可（可）退（退）と（と）小（小）船（船）と（と）揮（揮）と（と）以（以）五（五）湖  
小（小）ハ（ハ）アリ

五湖（五湖）、兵（兵）越（越）（（越）大湖（大湖））と（と）天下（天下）才（才）一（一）  
一（一）也（也）、君（君）代（代）、六（六）、已（已）列（列）の（の）名（名）、  
鳳凰（鳳凰）、存（存）代（代）、小（小）物（物）、泥（泥）と（と）五（五）湖（湖）、也











かた天を際たけららの水いづき  
かたおさきとあけつてつる

新田 治摩子 後入ぬらうと

淡氏清之の浦あやしく新波の

出さ己の月夜一途家小雨の清

風うく吹く非たらしきも

こころかしく涙あはれ清なる

髪不焼しや

一礼髪 髪 柳入苦味の色

髪を洗ふ髪を洗ふ髪を洗ふ髪を洗ふ

気味風梳新柳髪

お井ふ 削りぬ

又 かねかきく 髪いづく

かた髪を洗ふ髪を洗ふ髪を洗ふ

是れの有常つむむとれす

唐の羽山や新書ふせんく髪を

おさきして髪を洗つてれす

文集云結髪五載云 九の結の

髪を洗ふ髪を洗ふ髪を洗ふ

内書ゆく髪洗すをえぬ

糸通付 削るぬらうと

髪を洗ふ柳

一衣を洗ふ三日の氣あはれぬ



くわく しょうしん

右位現物流にけりか二入を推つしを

しき界はまづしきくまをえはの流に

りふふうの衣を洗くしはう

くわくまつとやかり

一土砂比 三入者 一八松東乃道

浦 塩乃千浮 二海色

一社の前 百変乃庭 砌

一星乃光 三濃舟乃志揚

学

吟 今夜の星は けしき 雲が 我は 舟のま

是葉年あまなり 在りていづく

日言にをらむれ方とるも 雲は

いさつと失多しのかあも 舟のま

六月 雲の 願を 吹か せ 絶れ 舟

白雲 武川ののきにいず 白雲の

未竹乃心 七ツツ 月乃心 夜

春の 船の 舟 早 雲 舟 梅

はらりと はらりと 見 見 悟道 悟道

くわく 人の 心 雲あり 道の 雲あり

唐 玄宗乃 唐 一行 阿蘭梨 楊貴

妃とす 玄宗乃 名立く 流され 多し



件の玉小三の道と編地道と  
西条の道と梅田道と部会坊  
道と一園宮道と一主科の道  
乃一一行の道犯人と一宮院  
道と道と七日七夜日月の光と不  
見真々々々々一人か一行を  
之采と天道の光と九うの身  
おく道と照りたる一行の園梨  
則指を谷切く花の袖小九曜の  
水らととと一和漢をよ言  
昔とと九曜鼻多羅也

一玉乃光 白菊 数の数

堂 流連の河邊小 堂を  
病小故月 百々のを  
沈乃蓮 沈水より蓮の  
花乃落 本支の落 柳乃落  
帯の直る道なる 帯を  
庫中と夜七め盡す 下頼る車  
の月あまの沈先車拾二を  
照ととと車あ後八五照と  
乃くわ 心乃月 去ぬの  
沈乃と母ふ出 沈乃と母ふ出



千和の古事(おまの)の中さく  
璞玉とらんけく文全氏 屬王山鼓と玉造よ  
子孫山衣たりと中新 想い千和  
るん足切次武王山鼓の玉み  
三かん石と云と村右足切  
新の玉足とく玉とあ(山)  
少くも位遊し成り位即く  
く玉と云く後く磨る玉  
光舟の鼓を揚ぐ和氏の鼓玉云  
とく千和恩澤をかうしり世ふ  
業へを均たり

一祝言(三)多の如く年々言  
あまの言

位をゆき 河至初とあ  
うまつ家 生世ありあを

えいり定

一正病(二)ふやあ家(三)車のはは還

小治 氷玉 あま 都の御事

粉岐の鼓 あまの正病をへる

神功宮宮之漢新河百保と

とく之給(村)百保(ら)正病(物)後

朝(一)たり

一糸(三)神事 神事(り)河 至



あまきき ちのたま  
琴 ことあき なる  
衣のりや 道成りさ  
まみら 華さ

おのゝみ ちのたま ちのたま ちのたま  
ちのたま ちのたま ちのたま ちのたま  
ちのたま ちのたま ちのたま ちのたま

（のりや）

嵐の神あり ちのたま ちのたま ちのたま  
ちのたま ちのたま ちのたま ちのたま  
ちのたま ちのたま ちのたま ちのたま

吉野山 神あり

吉野山 神あり ちのたま ちのたま  
ちのたま ちのたま ちのたま ちのたま  
ちのたま ちのたま ちのたま ちのたま

ちのたま ちのたま ちのたま ちのたま  
ちのたま ちのたま ちのたま ちのたま  
ちのたま ちのたま ちのたま ちのたま







親乃をくへ 志難

韋獨立難越而過庭日学

詩千對日未也日不学詩无

詩難退詩学下略

難孔子のめをを過は孔子教

をくへ和語は親のくへを割く

いつり考補語あり

梅花を考とまへくは母へ

善起吾は云哀帝後漢書則四

時隨之開花故梅を好文本を

一子初る三契今 言乃義乃道可也

親のいさめをいさめはかたは

小舟 海舟の海舟の表は海舟

平野院の本のりとは横

川入僧教泊来未訪の時入付ら

小舟ふいさかしのもをうり

いさかしのもをうり海舟初る

一子初る三契今

一子初る三契今

約庵 考焼 月

丁金 考乃の 考乃の

考乃の根







如くは在れしお存せんと驚く  
おのれ先公男文を及出川百仕と  
公列と云國の身權より公刺史と  
一と家大は富つと既小物束は  
世能の事と云ふも其時と云ふ  
事と云ふの談と化て神は織付男  
のく入道と云ふは是と云ふく其おと  
んをあらわすとの事と云ふは其  
じく常へり下略  
一武と云ふ并は家内出治  
心と云ふは馬より下と云ふは  
備倉

宇治川 昔より今 杉列 生田川

奥列 奥 別連の系

一橋と云ふ酒 吾等の 柳入村と云ふ

約いふ 若狭と云ふは 淡川

舟と云ふ 馬より云ふは

出治と云ふはおのれと云ふは其時と云ふは

住持物説は松切久と云ふは海と云ふは

業平と云ふは其字のりるは

よきたるは其字のりるは

一教と云ふは其字のりるは

亦乃と云ふは其字のりるは



小野の位方 次摩 粉波

志賀

一馬どりの舟 清舟の上は近

志賀の舟 舟のあいに別つ

月 神の洞 月をくち 奥まき 長

約 川 道の舟 舟のあいに別つ

水乃江 舟のあいに別つ

一宿の舟 舟のあいに別つ

約 舟 舟のあいに別つ

花乃下外

宿の舟 舟のあいに別つ

舟の舟 舟のあいに別つ

宿の舟 舟のあいに別つ

舟の舟 舟のあいに別つ

一宿の舟 舟のあいに別つ

都の舟 舟のあいに別つ

舟の舟 舟のあいに別つ

舟の舟 舟のあいに別つ

一野の舟 舟のあいに別つ

舟の舟 舟のあいに別つ

舟の舟 舟のあいに別つ

舟の舟 舟のあいに別つ







一柳ハナ里ハナ水ハナ塩ハナ屋ハナ

松竹ハナ霜ハナ漬ハナ柳ハナ

柳ハナ色ハナ和ハナ糖ハナ入ハナ泥ハナ中ハナ之ハナ柳ハナ

志ハナこハナこハナうハナうハナあハナうハナ柳ハナ或ハナはハナ得ハナ

富士ハナ浅ハナ間ハナ

川ハナせハナんハナ或ハナはハナ徳ハナ有ハナしハナかハナをハナるハナ柳ハナはハナもハナあハナらハナず

小ハナ野ハナ山ハナ柳ハナ花ハナをハナるハナ唐ハナ電ハナ交ハナはハナ徳ハナ有ハナしハナかハナをハナるハナ

まハナはハナ下ハナ井ハナ田ハナのハナまハナりハナ常ハナのハナ柳ハナ之ハナもハナあハナらハナず

一ハナ雲ハナ花ハナうハナちハナ福ハナ業ハナ

材ハナ一ハナ花ハナ移ハナ取ハナけハナあハナまハナまハナ

柳ハナ花ハナをハナるハナしハナはハナ是ハナのハナまハナりハナかハナをハナるハナまハナりハナ

風ハナ縁ハナ山ハナ乃ハナかハナのハナ書ハナ海ハナ

山ハナ遠ハナをハナ埋ハナりハナ岩ハナ池ハナのハナりハナ岩ハナ松ハナ金ハナ

まハナ有ハナるハナ花ハナうハナちハナのハナ山ハナ羅ハナ月ハナまハナりハナ

雨ハナ乃ハナ森ハナ一ハナ乃ハナ翅ハナひハナつハナ漢ハナ露ハナ

白ハナ雪ハナ柳ハナ花ハナ交ハナはハナ徳ハナ有ハナしハナかハナをハナるハナ

毎ハナ云ハナうハナらハナ山ハナ葛ハナ藤ハナ

一ハナ日ハナ雲ハナ鏡ハナ塩ハナ村ハナ東ハナ風ハナ雨ハナ雪ハナどハナくハナ

松ハナ原ハナのハナ果ハナ春ハナ乃ハナ月ハナ月ハナ

一ハナ日ハナ新ハナ福ハナれハナ布ハナ晒ハナ二ハナ乃ハナ雲ハナ

名ハナ利ハナ吹ハナ音ハナ消ハナうハナらハナ音ハナ解ハナ

氷ハナのハナむハナりハナ白ハナ雪ハナをハナるハナ音ハナ消ハナ



物産

一目新くきき<sup>ニ</sup>やき<sup>ニ</sup>長谷  
山合 妻は<sup>ニ</sup>侍<sup>ニ</sup>新<sup>ニ</sup>山  
松の下<sup>ニ</sup>浄<sup>ニ</sup>竹<sup>ニ</sup>

一橋<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>水<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>得<sup>ニ</sup>雨<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>糸<sup>ニ</sup>  
月<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>願<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>する

多<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>は<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>さ<sup>ニ</sup>げ<sup>ニ</sup>

一山<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>境<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>石<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>云<sup>ニ</sup>平<sup>ニ</sup>木<sup>ニ</sup>墨<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>  
昔<sup>ニ</sup>は<sup>ニ</sup>は<sup>ニ</sup>や<sup>ニ</sup>る

一虹<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>雨<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>夕<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>う<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>入<sup>ニ</sup>  
年<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>心<sup>ニ</sup>を

一驚<sup>ニ</sup>破<sup>ニ</sup>雨<sup>ニ</sup>見<sup>ニ</sup>裳<sup>ニ</sup>羽<sup>ニ</sup>衣<sup>ニ</sup>曲<sup>ニ</sup> 長<sup>ニ</sup>恨<sup>ニ</sup>多<sup>ニ</sup>き<sup>ニ</sup>

一天<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>水<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>波<sup>ニ</sup> 志<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>さ<sup>ニ</sup>も<sup>ニ</sup>異<sup>ニ</sup>  
昔<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>心<sup>ニ</sup>を 郭<sup>ニ</sup>云

一夫<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>昔<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>山<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>水<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>音<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>聞<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>二<sup>ニ</sup>色<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>水<sup>ニ</sup>  
一<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>ま<sup>ニ</sup>す<sup>ニ</sup>三<sup>ニ</sup>月<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>雨<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>水<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>道<sup>ニ</sup>

穿<sup>ニ</sup> 庭<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>道<sup>ニ</sup> 寒<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>心<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>行<sup>ニ</sup>き<sup>ニ</sup>  
松<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>道<sup>ニ</sup> 水<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup> 水<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>道<sup>ニ</sup>  
水<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>道<sup>ニ</sup>

一道<sup>ニ</sup>乃<sup>ニ</sup>池<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>三<sup>ニ</sup>橋<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>流<sup>ニ</sup>す<sup>ニ</sup> 松<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>  
埃<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>心<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>水<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>道<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>水<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>  
水<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>道<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>水<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>道<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>水<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>



学事とては所 古くは  
住持の居 亦るゝ世に及  
石の二筋 橋 往來の舟  
小舟の徳を 流す可い  
一注還るべき 往來の九  
花より 悲しいある言  
時々の川 宮浦の 名  
お飯 是やけりしゆりし お飯の言  
一風吹く 香をたたく 浪を  
病に 月を 舟を 雨を  
雨を 舟を 月を 舟を

木の葉 一葉柳の 梅の  
灯消れ 舟渡ぬ 松の  
舟の 舟の 舟の 舟の  
舟の 舟の 舟の 舟の

一葉の 舟の 舟の 舟の  
舟の 舟の 舟の 舟の  
舟の 舟の 舟の 舟の  
舟の 舟の 舟の 舟の



高尾 松原のたぐ 里舞臺

山崎 北野 福の若原

唐 天海の存子

神代の青海 山崎

むら野 山崎

東路の末 若菜ら花野意

他はあつたう海にす

一近 隣 物敷山 宮崎

予 鹿旁 山崎

門田 山崎

一津 山崎 鹿神山 山崎

鳴川 郭云 表夜舟 山崎

丁子 鹿 じり 山崎

高 山崎 山崎

花 山崎

一森 山崎 社 鳥 海

蜂 花 山崎 山崎

牛 回 山崎 社 山崎

斤 畧 山崎 紀乃 宮 山崎

一板 山崎 郭云 門 山崎 社 垣 寺



松原之橋 横川 在邊

お坂 お坂の橋の花を吹く

大比元 寺久山 石坂

一松三山 松原 石坂 演説台

岩 寺文 音

花 松原 寺文 音

病 任 寺 文 音

物 任 寺 文 音

石 坂 寺文 音

一松原三山 寺文 音

古寺 鐘

花 松原 是日 痛 御

刺向 松原 寺文 音

一松之 寺文 音

日 氣 寺文 音

江 崎 寺文 音

引 寺文 音

松 寺文 音

一林 三山 松原 寺文 音

寺 松原 寺文 音

此 日 寺文 音

か 寺文 音

と 寺文 音



木の末小もりそむきとてよむり  
こもり

八段定林深う柳花よととと

一巻の敷新 雨の音 風入る

馬 待傷 布衣野 山 山

若取山 信列 木堂路 木場山

文神 言丹 二村山 出野 鳥 鳥

一軒 鳥 木 窓 新 吾 常 鳥 鳥

河 鳥 鳥 池 堤 田 常 鳥 鳥

あさく 鳥 鳥 夕 鳥 鳥 梅 宮 涼 山 軒

常 鳥 鳥 みの 縄 雀 休 見

對のぬら 鳥 鳥 ち 鳥 鳥 じ 鳥 鳥 ち 鳥 鳥 ち 鳥 鳥

灯 中 殿 灯 沙 竹 裏 音

竹 鳥 鳥 入 鳥 鳥 ち 鳥 鳥 ち 鳥 鳥

足 鳥 鳥 楊 山

井 鳥 鳥 の 林 鳥 鳥

昔 鳥 鳥 入 鳥 鳥 世 鳥 鳥 ち 鳥 鳥

位 鳥 鳥 契 鳥 鳥 今 鳥 鳥 詩 鳥 鳥 の 鳥 鳥

二 鳥 鳥 人 鳥 鳥 出 鳥 鳥 て 鳥 鳥

引 鳥 鳥 の 鳥 鳥 中 鳥 鳥 の 鳥 鳥

一 鳥 鳥 巻 鳥 鳥 地 鳥 鳥

古 鳥 鳥 庭 鳥 鳥

古 鳥 鳥 庭 鳥 鳥

古 鳥 鳥 庭 鳥 鳥

古 鳥 鳥 庭 鳥 鳥



松伝清のふ

奥の山に松の伝清のふ  
一玉松三 霧の山 山陰清のふ  
松の伝清のふ

村松三 志山三 折端

一岩三 松莓 苔 寂  
常水三 山三 材三 田

いふ傳三 藤 麻 流乃三  
さう三 さる三 之三 山 流乃三

大井川 之無時 松根音羽

布川乃流

一蓬の流三 布川乃流

草子三 松梅 松風三  
あまの原 琴三 親の流

一蓬の流三 布川乃流  
衣三 川

の香 泊水 節 隣節三

河香 小野 矢田時

月三 月三 月三 月三 月三  
月三 月三 月三 月三 月三







花巻

一帯松木山 森 松

泊瀬山 臥し川尾より北に松木山あり

一丸木 新屋 高野小女山陰

子乃言 冬霧 法王

小野 臥し川尾より北に松木山あり

大原 臥し川尾より北に松木山あり

山道 三里 神宮 塙屋

村 新屋 川井 言敷

樵 付合 大回 寺

一帯川 時 林原の原 言敷

笛 より 川 寺

一帯 山道 川井 寺

市 寺 寺 寺

一夜乃 川 浪白 山

振立 寺 寺 寺

物 寺 寺 寺

言 寺 寺 寺

寂 寺 寺 寺

衣 寺 寺 寺

物 寺 寺 寺

玉 寺 寺 寺



花の夜の花の夜の花の夜

一昔の月夜に 宿りては

人海を渡る来焼火は

灯火斤友神は

舟とて 人の世の

高き並 雲 霧

雨はあつ 来入地 市人の

小田とて 世の

堂かのうく 凍る川 床の

地とて 花の下 鐘とて

夕 昔の世の 羅

一帯と云 竹 世 若

一帯と云 糸 糸柳

一帯と云 細子 下細

糸柳 ちの縄 出 受

糸柳 あつ水 露 霜 氷

帯

一帯のう 為 芦 葉 堂 灯

舟

一帯のう 若 昔 ちの 夕 堂

みか ちの け

一帯の通 海 舟



丁世の病

一うけと云、碁、衣波田畑

築、鞆、津元、木、奈

一川と云、縹子、細ひ（何れ）

松本、琴、木、抱、云、云、の、纜

舟、釣、牛

一と云、又、絃、云、月、弟

松、乃、落、葉、云、云、所、比、銘、傳

一ひらと云、花、梅、玉、云、云

又、羽、身、龐、門

一表と云、弓、衣、本、同、舟、云

一と云、衣、中、旁、霞、燗、云

波

一海と云、楊、材、舟、一、小、舟

十、世

一わと云、水、乃、夜、の、月、一、初、の、月

入、日、夕、日

一深と云、音、台、奥、山、海、洞

花、乃、云、云

一淺と云、初、音、花、舟、流、津、歌

一と云、此、云、の、寫、字、乃、蘇、云



かゝ一懸る事

一雁を遊こころは色いころり

おとよのころりよはなを

かゝ一懸る事

あふ存の事をらせし

面白かりし事

一軒

約をかくまひて

舟をさしあそぶ

一鳥

あふ存の事をらせし

あふ存の事をらせし

三ノ



うら田子 ちのなり交

橋人回着つとあは

一鴨 おふし此の鴨 お伺ひは

一鴉 指どわりくその巻 つら

一麻 いづし きつとあは

一半 いづし

一 いづし

強魁の巻の字は

一 いづし

一 いづし

一 いづし

一田 いづし

いづし

山類之躰

一山 峯谷 高根 麓

一 巖 尾上 組坂 洞

一 九折 山 いづし

日月

一 杉木 いづし



枅畑 所 滝澤 寺 地 穴

水多 寺

一海浦 濱 故 江 港

汀 沖 渚 漱 和 田 原

津 崎 崎 王 河 堤

岩 淵 漱 池 沼 川

弁 澤 泉 湊

月 用

一水波 垣 氷 泡 寺 所

少 寺 所 清 水

水 多 所 用 所

一舟 筏 橋 流 垣 屋 所 燒

寬 細 代 釣 人 海 下 樋

築 貝 所 海 松 芦

うき 藻 杜 表 所 海 寺

道 奥 水 寺 水 多 所 用

居 所 所 所

一里 軒 床 垣 籬 所 庭 所 所

門 窓 戸 抱 家 所 所 所

礎 障 宿 所 所 所 所 所

柱 蔓 宿 所 所 所 所 所



君所用  
一庭外白 竹

日沖月介 君所用

一物任任わ 而村わ建家

かよふ 戸 雲乃戸

岩屋板下 塙屋 旁花

蔵の巻 田の巻 竹葉

若葉 世葉 匠乃後

山形 山形 山形

一泊 川 住寺 福ハ山形也

竹葉 木葉 吉野具

小町具 後藤わく 後藤わく

宮乃山川 乃乃 乃乃

竹玉 跡清 炭焼 仙人

山後 山形 仙人 山の字ニ有

山科 岩橋 立田乃わく

宮古川 宮園乃わく 痛傷

下井 蓮花 蓮花 蓮花

蓮花 蓮花 蓮花 蓮花

蓮花 蓮花 蓮花 蓮花

蓮花 蓮花 蓮花 蓮花



水色道心母より通物

一難波 志加美 邦の志 横川 山登

任吉 任吉の味 作非之渡

沈摩の上舟 わりの岩洞川

松浦娘 うるし海原 白川 白川

之取川 美川 美川 橋 破水

若垣 蓬道 蓬道 月 月 二色

行のふるい 渡り少 月乃水

寂の少 深田 高代 藤網

布晒 鴨

一府一白一物

一着 草 款冬 花じ 杜若

牡丹 橘 松原 女扇花

極 極 常 常 部云 上白

常 蜂 烟 欽也 松也 雲

片 音 古 へ 水 目 木 粘

恐 子白 虎 日 竜 日 鬼 日 女 日

父 苦 はか 猪 犬 山 香

鳥 巢 板 はか 父 付 香

夕月 網乃月 水白 長 葉

梅 砌 かし 家 中 庭 園



捨つ尾上言ひの夕立

いかにぬのうらまをあふぬのうらま

みりまいかにぬのうらまと朝

あさひはさく 夜

石いかにぬのうらま 遠近いかにぬのうらま

焼るいかにぬのうらま 前いかにぬのうらま 葉

お乃や百の者いかにぬのうらま

方く百の字 響いかにぬのうらま 髪

いさむあや くら夜いかにぬのうらま

いつらいつらいつらいかにぬのうらま

いかにぬのうらま

さぞかほおふよふとさく

たふとあまふかほらふ

筆いかにぬのうらま

さよふさより 捨るいかにぬのうらま

捨りいかにぬのうらま 衣いかにぬのうらま

捨りいかにぬのうらま

のぞし佛いかにぬのうらま 半天いかにぬのうらま

りいかにぬのうらま 赤いかにぬのうらま

ちらしく 捨へいかにぬのうらま 摘いかにぬのうらま

まぶさく 境いかにぬのうらま

さくき 境いかにぬのうらま 偽



宗色(杖) 池光 家(一)  
一(一) 如(一) 如(一) 如(一)

一(座) 二(白) 一(物)

一(曉) 二(馬) 一(代) 一(若) 一(代) 一(淡) 一(喜) 一(風) 二(一)

一(稀) 一(風) 二(松) 一(嵐) 一(一) 一(一) 一(一)

一(吹) 一(風) 二(一) 一(日) 二(一) 一(留) 一(一) 一(一) 一(一)

一(高) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(池) 一(日) 一(漆) 一(日)

一(嶺) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一)

一(宿) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一)

一(庭) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一)

一(男) 一(一) 一(男) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一)

一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一)

一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一)

一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一)

一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一)

一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一)

一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一)

一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一)

一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一)

一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一)

一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一) 一(一)















一庭におひる 一音もり也

一庭事細松竹ふの煙 おりの煙

やれ上人 雲の底一散走 陰鳥

一雨ふ下村から夕言ぬ朝のむく

一月三日次月日 月次月日

一植也 種まき 山の也 野る也

の道野 埋木 草むし 竹 株

草刈 園藪 川の松 心板

心の花 薔代 下宿 若葉 枕

冬枯る 若葉 若葉 若葉 若葉

田舎川 言の葉 入る也

一人備 一人備 一行歩 歩み

一破 衣 衣 衣 衣

一生に 驛 鉢 鉢 鉢

さうとく 杖 杖 杖 杖

はく 杖 杖 杖 杖

一老 音 杖 杖 杖

一亦 草木 一音 見

一暖 長床 衣 涼 冷 じや

是の 是の 暑 暑 暑

若二の 若二の

一指 末 一松 子日 一穂 木











一あゝ海水 一玉下二道  
 一約束<sup>たき</sup> 一海<sup>こ</sup> 一火<sup>た</sup>  
 一付還<sup>三</sup> 一付<sup>三</sup> 一付<sup>三</sup>  
 一上<sup>久</sup> のり<sup>た</sup> 一上<sup>三</sup>

三方可隔也

一月<sup>日</sup> 一甲<sup>七</sup> 一七<sup>八</sup> 一七<sup>九</sup> 一雨<sup>落</sup>  
 一寂<sup>電</sup> 一寂<sup>寂</sup> 一寂<sup>寂</sup> 一寂<sup>寂</sup>  
 一雲<sup>煙</sup> 一煙<sup>煙</sup> 一煙<sup>煙</sup> 一煙<sup>煙</sup>  
 一多<sup>中</sup> 一歎<sup>歎</sup> 一歎<sup>歎</sup> 一歎<sup>歎</sup>  
 一可<sup>隔</sup> 一五<sup>五</sup> 一物<sup>物</sup>

一月<sup>日</sup> 一風<sup>ノ</sup> 一風<sup>ノ</sup> 一風<sup>ノ</sup> 一風<sup>ノ</sup>  
 一山<sup>ノ</sup> 一浦<sup>ノ</sup> 一浪<sup>ノ</sup> 一水<sup>ノ</sup>  
 一道<sup>ノ</sup> 一夜<sup>ノ</sup> 一木<sup>ノ</sup> 一草<sup>ノ</sup>  
 一神<sup>ノ</sup> 一志<sup>ノ</sup> 一志<sup>ノ</sup> 一志<sup>ノ</sup>  
 一神<sup>祇</sup> 一天<sup>教</sup> 一居<sup>不</sup> 一山<sup>火</sup>  
 一述<sup>懐</sup> 一昔<sup>老</sup> 一古<sup>古</sup> 一古<sup>古</sup>  
 一原<sup>在</sup> 一在<sup>在</sup> 一在<sup>在</sup> 一在<sup>在</sup>  
 一田<sup>生</sup> 一田<sup>生</sup> 一田<sup>生</sup> 一田<sup>生</sup>  
 一松<sup>三</sup> 一松<sup>三</sup> 一松<sup>三</sup> 一松<sup>三</sup>  
 一亦<sup>三</sup> 一亦<sup>三</sup> 一亦<sup>三</sup> 一亦<sup>三</sup>



可保七句抄

一月春字秋之冬之夏之一月と一松ト

一竹ト一衣ト一夏ト一船ト

天竺船天川舟等し七句を以て水巻  
舟等山 七句を以て 舟五句を以て

一洞ト一田ト一枕ト一燈ト

可保面抄

一月の七句が一極ト一極ト一別ト衣ト

一文字ト一文字ト一文字ト一老ト一白ト一髪ト

一志ト一志ト一志ト一志ト一志ト一志ト

一藤ト一志ト一志ト一志ト一志ト一志ト

一中ト一中ト一中ト一中ト一中ト

一園ト一寝ト一山ト一山ト一山ト一山ト

一極ト一極ト一極ト一極ト一極ト一極ト

一外ト一外ト一外ト一外ト一外ト一外ト

一門ト一門ト一門ト一門ト一門ト一門ト

一願ト一願ト一願ト一願ト一願ト一願ト

願 嶽 之 根 以 五 句 乃 根 未 八 句 也

一都ト一都ト一都ト一都ト一都ト一都ト

一考ト一考ト一考ト一考ト一考ト一考ト

一考ト一考ト一考ト一考ト一考ト一考ト

一歎ト一歎ト一歎ト一歎ト一歎ト一歎ト







一宿<sup>ニ</sup>屋<sup>ニ</sup>宿<sup>ル</sup> 宿屋  
 一本<sup>ニ</sup>抄<sup>リ</sup> 抄本  
 一奥<sup>ニ</sup>字<sup>ニ</sup> 奥字  
 一寺<sup>ニ</sup> 寺  
 一海<sup>ニ</sup> 海  
 一岩<sup>ニ</sup> 岩  
 一手<sup>ニ</sup> 手  
 一氷<sup>ニ</sup> 氷  
 一為<sup>ニ</sup> 為  
 一わ<sup>ニ</sup> わ  
 一考<sup>ニ</sup> 考

一庭<sup>ニ</sup> 庭  
 一月<sup>ニ</sup> 月  
 一か<sup>ニ</sup> か

右一庭ニ白ニ白ニ白の如く  
 左一庭ニ白ニ白ニ白の如く

右教多し  
 左教少し  
 右文多し  
 左文少し  
 右事多し  
 左事少し



け武月又番娘天文此肖柏  
道道ぬ老之能くあはれ也  
之及中、字也

善美のしにけりては

一あしは 二三あしはかち二三あしは

一志乃よ 二三人あはれ二三あはれ

一あはれ 二三あはれあはれ二三あはれ

一か 二三あはれあはれ二三あはれ

一か 二三あはれあはれ二三あはれ

祠一あしに二川を

一か 二三あはれあはれ二三あはれ

三詩奇抄



一はらぶ あはれなる心

一えん いん

一かに いかに

一ち いかに

一を いかに

一を いかに

一を いかに

一を いかに

一あ いかに

一を いかに

一を いかに

一發 いかに



そと又切字同かたけ  
よこは字なり

外

月乃燈花乃事と朝小宗祇

全

山乃風花の波とよと海日

一

そと並川名をく物取日

そ

花とびととあまそ雨と春と

り

た乃えもめかた酒つ文事之宗祇

もか

春と花の色とあまそ宗祇

もか

郭と春とあまそ聲もふ日

なり

と春と風と約なり花と日

わ

好まぬ松とつとれ真清風日

一

お美せぬ好とつとれ真清風日



し

ぬらきまじはむ井の山を待

宗義

たう

春の月を我は待らぬの夕の端を月

い

二葉しるすももを梅の光日

よ

梅の香をうらみの入も津のくし日

い

そめふいし山をて殿の霞をのり日

い

春の林をうらむる葉は花の葉ちん

い

空の雲を乃卯花を藤の月

い

足るあぬをうらむ朝の霞を霞

い

花乃うら山をその入志を梅の月

い

若も文をうらむる海を都の月

い

今朝のうらむる霞をその日

たうらむる日







おのれをまじへて

一ぞこころをいかにあはれ

こそよのなをいかにあはれなき

とていかにいかにあはれ

いかにいかにあはれいかにあはれ

あはれいかにあはれいかにあはれ

いかにあはれいかにあはれいかにあはれ

いかにあはれいかにあはれいかにあはれ

いかにあはれいかにあはれいかにあはれ

いかにあはれいかにあはれ

いかにあはれいかにあはれ

あはれいかにあはれいかにあはれ

あはれいかにあはれいかにあはれ

あはれいかにあはれいかにあはれ

あはれいかにあはれいかにあはれ

あはれいかにあはれいかにあはれ

あはれいかにあはれいかにあはれ

あはれいかにあはれいかにあはれ

あはれいかにあはれいかにあはれ

あはれいかにあはれいかにあはれ

あはれいかにあはれいかにあはれ

あはれいかにあはれいかにあはれ



一り葉乃更らば傷とせんか

あらの月ふらめつせ

昔はまそ福もついで花をま

ふらりかたはま乃木のり

けけ花のぬもぐりて

うらま付 月付

たぐきまられたる山部云

いくたかしく建つて成る所ん

うらま付

あさきの花の色より露滴

ぬらうそれそあけ露

あけ花はさきほくはくまを

花とむそ色をあつそ

川をた藤山次乃ほそい

是れ付る月一也あは

花のま枯つてまよや送る

あけ付のまをく音より

あつて川つはりて

あつて月日つらに

是れしうとて

あつて柳乃果より花

あつては







只名の付合とていへり  
ふしをの女もよひ  
いふも初め人の心は肝要

巴にほむは後も抄めを  
はるくしりしは  
身一能き肝要といふ  
ても能きなまの  
うられは  
はるくしりしは  
はるくしりしは

ふはるくしりしは  
うも定れ事不可有古今  
席も人への持と  
はの言葉とを  
色も面白く  
ふもとらう  
おけつり唐も  
多敷き本  
詞も  
定家乃守



一 玉のよきと云葉のゆゑ  
新しきをよきて先づ一河原  
こをりてあつて又云和介  
小僧道はしちよこ交成の師と  
しるしあひしちよこ河原を  
少してあつたの他さし出来六  
玄妙の道ありあつて音乃  
人乃平とてあつて此のゆゑ  
古と集と始世中河とある  
世傳ありあつてあつたは河  
のつを後少とてあつた

之家の流とてあつた葉の湯と  
と平道とてあつた古とあつた  
とてあつた新しき集とあつた  
乃とあつたあつたあつたあつた  
湯とあつたあつたあつたあつた  
小僧とあつたあつたあつたあつた  
くよとあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
のよとあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた



と二川より書つぬ百韻  
なはなと去りてまねかたり  
あかき二河の上りよ其心は元  
ねも下乃のあつとより下  
乃の乃のあつとより下  
事おほし連ねの二のくまの  
かしてる叶ぬまの二のくまの  
ふふあまの葉もまのあつと  
らるるとらるるとらるるとらる  
月ひさしは任らけの事は  
去合しまの机等も去席乃

好去油はつる事かまはし  
らめふの世も不音又音の歌  
才ふふのゆきていふよおの  
あつと書けは二河のあつと  
とまのあつとまのあつと  
大のあつとまのあつと  
お志のあつとまのあつと  
又お志のあつとまのあつと  
まのあつとまのあつと  
お志のあつとまのあつと  
花のあつとまのあつと



才ふといふ但楊花といひては  
正花よりあり又花小梅をも  
竹も梅も正花といひて一庭  
ふも人切なうて平人無故  
も事山の二木の内も心を所  
要とはあひいよと兼ふとなく  
いふ事し花小初中後の心持  
も二七九年の内ふまを納め良  
し花のあはれと云かふいふ  
ふあまの梅もえよ高けりわく  
花をさける事とる日本書

まぬ打さくはふいふあま  
てさむれともえんや納めも  
漸本と梅のつよ色ちり成るに  
一花いふとて天下此まをさ  
教のやれ家く梅もゆわく  
とやては花の車此池とて  
なつね花の日も花も花も  
花のいふはまも花も花も  
告身付はまもあつ馬も花も  
本此本もあつとていふか  
これ梅も花のまも花も



























